

大学出版の源流

「官板」から「福澤氏蔵版」まで

眞壁仁 2

*特集

大学出版部の本棚 II

『チーム・オール弘前の一年』

(弘前大学人文学部ボランティアアセンター編
中根明夫 8)

『障害者旅行の段階的發展』

(井上寛著) 根橋正一 10

『一人ひとりのニーズに応える
保育と教育』

(聖徳大学特別支援教育研究室編) 河村久 12

『読むと書く 井筒俊彦エッセイ集』

(井筒俊彦著/若松英輔編) 納富信留 14

『社会人のための法律入門』

(齊藤聡著) 齊藤聡 16

『リーディングス 日本の高等教育』

(橋本鉉市・阿曾沼明裕企画編集) 西山雄二 18

『父マルコニー』

(デーニャ・マルコニー・パレーシエ著) 脇英世 20

『旨みを醸し出す 麴のふしぎな料理力』

(前橋建二・浅利妙峰著) 橋詰嘉人 22

『ものと人間の文化史 71 木炭』

(樋口清之著) 鬼頭宏 24

『線の稽古 線の仕事』(三嶋典東著) 白井敬尚 26

『見えてくる バプテストの歴史』

(出村彰監修/バプテスト史教科書編纂委員会編)
寺園喜基 28

『性が語る』(坪井秀人著) 伊藤比呂美 30

『ツツバ語 記述言語学的研究』

(内藤真帆著) 梶茂樹 32

『環境と海洋』

(細田龍介・山田智貴著) 細田龍介 34

『ドゴールの核政策と同盟戦略』

(山本健太郎著) 豊下梢彦 36

『原爆と広島大学』

(広島大学原爆死没者慰霊行事委員会編) 岡本哲治 38

*連載

初版本、ナンセンスなフェティシズム

板垣應徳著『西洋美術史』 酒井道夫 表2

大学出版

大学と社会を結ぶ 知のネットワーク



一般社団法人
大学出版部協会

THE
ASSOCIATION
OF
JAPANESE
UNIVERSITY
PRESSES

NO. 94
2013.4

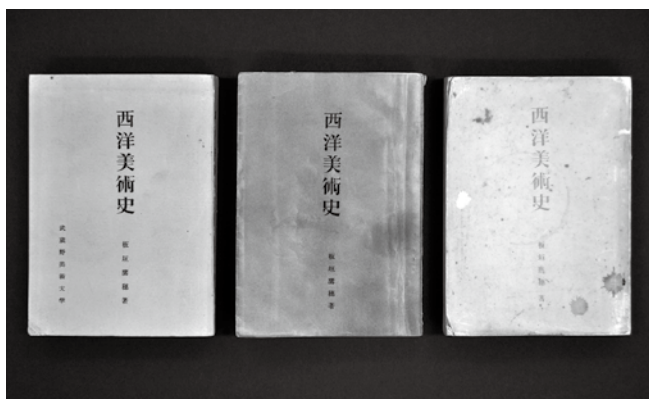
*春

50th
Anniversary

板垣鷹穂著

『西洋美術史』

酒井道夫（二代目酒井九波堂）



右から順に新しくなる異版たち。各版350頁ほどで、全てモノクロながら掲載図版数は294点と多い。最初期には3分冊だったものが1冊にまとめられ、全図版を巻末にアート紙でまとめるなどの改編が少しずつ行われたらしい。一番新しい左端の表紙には「武蔵野美術大学」の表記があり、各種学校から大学となった（1962）後も使用されたことがうかがえる

小生意気な美術論などを語る（騙る？）青二才だった私に、今は亡き恩師が「とりあえずこれを読んでおいたらどうか」と手渡して下さったのが本書（武蔵野美術学校西洋画科通信教育部刊 一九五一？）。この極めて個人的できつぱりとした知の構築物に遭遇したのは心底衝撃だった。出鼻を挫かれたというか……。戦前、尖端的な造本をまとった書物を矢継ぎ早に刊行し、新奇かつ知略にまみれた言説を発して世間を煙に巻いた著者の、これはほぼ締めくくりの仕事だったのだ。

そっけなく付した断り書きに「私は、四十年近くの遠い昔に、幼く拙い美術史の概論を書き、心に悔いと責めとを感じつつけて来た。ここに過去の甚しい未熟さを補い訂す機会をもつたことになる」と書き添えているが、これを真に受ければそれは一七歳ちよぼちよぼの頃だったことになる。いくらなんでもそれは……。ここで言及しているのは、著者二八歳の作『西洋美術史概説』（岩波書店一九二二）あたりのことだろうか？ いずれにせよ、若き日の著述をこの際改訂しておきたいと考えたようだ。

しかし、その無愛想な作りには改めて目を疑う。ざっくりと針金で綴じた紙束を、コットン紙で無造作にくるんであるだけだ。武蔵野美術大学の前身、武蔵野美術学校西洋画科がその通信教育部創設（一九五二）に際して刊行したテキストが本書のはずだが、奥付がない！ だから初版の刊行年月日、印刷所はおろか版元すら不明。無論、重版情報など分かるはずもなく、いやはや書誌泣かせな本だ。本フェチの立場から見れば、極北に位置している。

当時、世間的にはほぼ世捨て人扱いだったといわれる著者が、出版に未経験な武蔵野美術学校の現場を手取り足取りで導きつつ、やっとなり上げた本書は畢生の著作だったとも思われるわけだが、何だか身につまされる想いが充満している。遙か昔、小学校の教室で配られたガリ版プリントに毛の生えたる程度のたたずまいに感無量。見掛けじゃないよ中身だよ、反省！

■ 目次

大学出版の源流——「官板」から「福澤氏蔵版」まで

* 特集・大学出版部の本棚 II

- 『チーム・オール弘前の一年』（弘前大学人文学部ポランティアセンター編）
 『障害者旅行の段階的發展』（井上寛著）
 『一人ひとりのニーズに応える保育と教育』（聖徳大学特別支援教育研究室編）
 『読むと書く 井筒俊彦エッセイ集』（井筒俊彦著／若松英輔編）
 『社会人のための法律入門』（齊藤聡著）
 『リーディングス 日本の高等教育』（橋本鉦市・阿曾沼明裕企画編集）
 『父マルコニー』（デーニャ・マルコニー・パレーシエ著）
 『旨みを醸し出す 麴のふしぎな料理力』（前橋建二・浅利妙峰著）
 『ものと人間の文化史71 木炭』（樋口清之著）
 『線の稽古 線の仕事』（三嶋典東著）
 『見えてくる バプテストの歴史』（出村彰監修／バプテスト史教科書編纂委員会編）
 『性が語る』（坪井秀人著）
 『ツツバ語 記述言語学的研究』（内藤真帆著）
 『環境と海洋』（細田龍介・山田智貴著）
 『ドゴールの核政策と同盟戦略』（山本健太郎著）
 『原爆と広島大学』（広島大学原爆死没者慰霊行事委員会編）

* 連載・初版本、ナンセンスなフェティシズム

板垣鷹穂著『西洋美術史』

眞壁 仁	2
中根明夫	8
根橋正一	10
河村 久	12
納富信留	14
齊藤 聡	16
西山雄二	18
脇 英世	20
橋詰嘉人	22
鬼頭 宏	24
白井敬尚	26
寺園喜基	28
伊藤比呂美	30
梶 茂樹	32
細田龍介	34
豊下楯彦	36
岡本哲治	38
酒井道夫	表2

大学出版の源流——「官板」から「福澤氏蔵版」まで

眞壁 仁（北海道大学大学院公共政策学連携研究部教員）

森鷗外生誕一五〇年を記念して、二〇一二年十一月、彼の自邸「観潮楼」跡地に文京区立森鷗外記念館が開館した。前身である鷗外記念本郷図書館から受け継いだ文京区所蔵の鷗外関連資料とともに、新たに遺族から寄贈された資料が、新装の記念館における展示を引き立てている。展示室で偶然にも、新収蔵の鷗外自筆稿「霞亭生涯の末一年」その三の一部」を閲覧し、しばらく忘れていた年来の課題を思い出こした。

鷗外によれば、彼の晩年の史伝の主人公である北条霞亭は、文化一三年夏に佐賀藩儒の古賀穀堂と交友を持ち始めた。その穀堂が霞亭に宛てた文政五年十一月一三日の書翰とその紹介が、この『霞亭生涯の末一年』の計四枚の自筆稿の内容に当たる。鷗外はこの書翰の大意を記したあとに続けて、つぎのように記す。「此詞は穀堂の伝の資料として頗る価値のあるものであらう。第わたくしは古賀一家の事蹟に通じておらぬので、其価値の大きさを知り、此資料を

以て填むべき穴を填めることが出来ない」。佐賀出身で古賀精里・侗庵・謹堂と昌平坂学問所の三代にわたる儒者一家の事蹟を集中的に調べたことがあるが、精里の長男で佐賀に残り藩校弘道館で教鞭をとった古賀穀堂を江戸の学問的交流圏と関連づけて論じることは、私にとっても以前からの宿題だった。自筆稿に誘発されて、鷗外の史伝を閲しつつ、大学出版の歴史を遡ってみたい。

「聖堂板刻」としての「官板」——開板資金と収益

鷗外が注目する穀堂の書翰の内容は、彼自身の要約によれば、以下のようなものである。「幕府の文教が衰替に傾いて、人才も出ない。君（北条霞亭）の主侯（阿部正精）も老中の一人であるから、今少しどうにか奨励してくれることは出来ぬものであらうか。昌平学校の官版が追々出来るのは結構な事だ。あの本の売上金を教育費の方へ分けてもらひたいものだ。まだ世間には立派な学者で隠れてゐるもの

がある。どうかそれを引き上げて使ふことは出来まいか。こんな事を言ふのは、なんだかうしろめたいやうだが、謙遜ばかりしてゐては、心に思つてゐる事が言ひ尽されぬから、遠慮なく思ふ通りに言ふのだ」。

「昌平学校」すなわち昌平坂学問所は、林家の家塾であった湯島の聖堂と学舎が、寛政九年一二月に幕府直轄となつた学問所と改称された学校のことである。この昌平坂学問所での出版物刊行計画が具体化し、寛政一〇年二月には同所の刊行物に限り官板と呼び、それ以外の刊行物にその呼称を用いることを禁じる触れが出されている。近代日本の大学の前身として、開成学校、医学校にあわせて、旧幕時代の蕃書調所、さらに昌平坂学問所も数えることができるならば、寛政一一年から刊行が始まつたこの学問所官板を、大学出版の源流とみなしてもよいであろう。

もつとも官板と称された徳川幕府の刊行物は、家康・綱吉・吉宗の治世下でも出版されていた。ただし、当初は「官刻」でありながら「板の納め所な」ために、板木を書肆に払い下げて、民間の書店の利益となる事例が少なくなつた。享保一一年頃に吉宗に「政談」を献じた荻生徂徠は、その幕政改革案のなかでこの「町人の利倍」となり「官板といふ名も実は不叶」という状況を批判し、他国の「監本」が「学校に板を納置き」、それを摺り販売して「学校の物入の料」にしている事例を引き合いに出す。幕府が出版資金を貸し付けて、儒者が主宰する稽古所で官板を管理して

出版を行えば、その販売利益によつて出資金を返済できるだけでなく、講堂や書生寮なども幕府の援助なくして整備され、次第に学校の体裁をとるようになるのではないか。

徂徠の改革案からおよそ一世紀後の前掲の古賀穀堂の書翰は、すでに昌平坂学問所が独占的に官板出版を担うようになってからの提言である。その原文は、次のようである。

「当時聖堂板刻は大要出来立、是はよ程盛事に候得ば、何卒天下之才俊を教育するの費用に分ち度ものに御座候。當時も被褥懐玉之もの随分可有之、右様の如きもの候は、振抜汗塗と申手段は有之間敷や。鷗外は書翰の後続の文面を踏まえて、穀堂自身を含め在野で埋もれている学者を幕府で取り立て「天下之才俊を教育」するために、官板の売上金の使用が進言されていると解する。しかし、「只わたくしは古賀氏の事蹟に通じてゐぬ故に、此間の消息を忖度するに一膜を隔つる憾があるのである」と鷗外自身も留保するように、この書翰に幕府の「御儒者」として召し出されたいという穀堂の野心を読み込めるかは解釈が難しい。北条霞亭が幕府老中を務める福山藩主に文政二年以降仕えており、霞亭を通じて自らを売り込んだのかどうか。鷗外の史伝以降に著された西村謙三『古賀穀堂先生小傳』はこの書翰を取り上げておらず、穀堂を論じる上での位置づけはなお検討が必要である。

この書翰から生じるさらなる疑問は、そもそも昌平坂学問所の官板が、徂徠が構想し穀堂が前提とした出版事業の

成果を上げられたのかということである。のちに学問所構内北端には板木を収蔵する官板蔵二棟が設けられ、数十歩隔てた北寮西側の官板所では官板の印刷が行われた。ただし学問所官板の彫刻経費は、幕府の勘定所から支出あるいは貸与されるのではなく、学問所の年間の経常費の枠内で賄われていた。内藤耻叟によれば、春秋二度の聖堂での孔子祭である釈奠挙行の際に「諸侯ヨリ孔廟へ献納シタル金馬代ヲ積ミ置」き、それを学問所の官板の開板資金に充てていたという。福井保『江戸幕府刊行物』は、彫刻には多額の経費を要したが、廉価で販売したため、官板の板木を借り出して印刷・販売した指定書肆からの売上高に応じた板賃としての上納金は少なかったとする。元来営利事業ではなかったため、書肆は薄利な官板摺り立てにあまり熱心ではなかったという。官板の収益は、穀堂が期待する新たな御儒者登庸の人情費を賄う程ではなかったであろう。

のちの学問所を統轄した林大学頭の文書から窺える認識は、学問所官板事業が「文学之御教化、世上江遍く相及候為メ」という「御趣意」によって開始されたということである（学問所官板之儀に付相伺候書付「天保一三年九月」。「蔵板」という板木所有の版權は学問所が保有しつつ、印刷・製本技術や販路が利用できる書肆に摺立・製本・売捌を依頼することは、官板の出版活動が「諸国迄江も広く相及」教育之基本に相成、かねてからの「御趣意」にも合致する。ただしこの「文学之御教化」は、漢学の普及と振興を目的

とするものであり、いわゆる寛政異学の禁で林家家塾に対して確認された「正学」朱子学を各地に弘めて、異学を強制的に排除して国内の文教の統制を図るものではなかった。官刻本としては、清朝の皇帝勅撰の八万巻からなる『四庫全書』のような大叢書刊行事業に比して、学問所官板の六九年間の出版物の総計が僅か一九七部、一二四版（福井氏の算定）に留まるのも、彫刻経費が学問所で賄われていたことに加えて、国家規模の思想統制を伴う出版事業ではなかったことに因るだろう。他方、一六四四年に明から王朝交替を果たした清朝の官刻本は、文字の獄と禁書を繰り返した反清思想統制の副産物であり、明朝末期の思想的混乱を否定し、結果的に学問内容における宋学を正統化する作用をもつものであった。

「官板」の選定・校訂作業——林大学頭と校勘学者たち

創刊年の寛政一一年に刊行された学問所官板は、『朱文公易説』『詩伝遺説』『儀礼図附旁通図』『四書白文』『金石三例』『温公家範』『從政名言』『牧民心鑑』『小学白文』の九部である。これら宋学の古典や為政者が範とすべき政治倫理書に、のちに漢学研究のための学術研究書の出版が加わる。数部の国書を除き、官板の主部は、宋・元・明・清・朝鮮刊本を底本として、校訂や句読点を加え字体を明朝体で統一した翻刻本と、底本の字体を忠実に再現した覆刻本とが占めていた。

残存史料を実査した市川任三の官板底本研究によって明らかになされているが、学問所官板創刊にたずさわった林大頭（大頭）の林述齋やその嗣子培齋や復齋らは、官板の書目選択、博搜のうえで底本選定と、複数の底本を用いた本文校勘作業に意を注いだ。彼らは、校勘学を専門とする者たちからも助言を受けつつ、多くの場合、清朝の考証学者たちの校訂を経た清朝刊の各種の叢書本から底本を選定した。書誌調査を行い、典拠を明記し、内容の異同を精査し、精確な注釈を附す書籍編纂は、当時官板ばかりでなく諸藩や藩校の出版物にも求められるところであり、じつさい北条霞亭が福山藩の藩版として文政五年九月に刊行した清の高愈『小学纂註』校刻本も、その一つであった。学問所官板を模範として、諸藩も競うように藩版の刊行を行うようになる。

鷗外の三大史伝の主人公たちはいずれも書誌学・校勘学を主として朱子学を信奉する者ではないが、鷗外が描く彼らの交流圏は、官板と同時代の学問の性格を知る上で手がかりを与えるだろう。彼が北条霞亭に続いて史伝執筆を予定していたという松崎謙堂の「謙堂日歴」には、謙堂が官板に関して林大頭（大頭）の相談に与り、意見を具申した記録があり、さらに「板行書籍意見書」が残る。澀江抽齋は、文政一〇年九月以降、狩谷掖齋とともに謙堂邸での『文中子』『説文解字』『儀礼』の会読に参加していた。江戸の佐賀藩中邸居住の古賀穀堂が書翰のなかで霞亭にもちかけた「中路

会」という文会は、霞亭が文政六年八月に亡くなったため実現しなかったようだが、穀堂を中心にして「海鷗社文会」（文政九年）が組織されている。これら江戸の会読や詩文の文会を介した知識人たちの文芸結社の交流は、学問所の学問内容や官板とどのように関係していたのか。後代の問題関心に、鷗外作品は直接応えてはくれない。そもそも彼らの著作内容やその思想に、鷗外の関心はない。「安井夫人」以外の作品では、学問所の儒者について踏み込んで論じないのだ。その一つの理由は、幕府直轄の学問所の学問の狭隘さという当時一般に共有された認識にあったと思われる。

「学問所改」——仲間の自己規制から機関の出版検閲へ

鷗外が批判的に学問所の儒者に論及するものに、彼らが曲亭馬琴『南総里見八犬伝』の出版差し止めを申し立てた事件がある（『南総里見八犬伝』序一九二一年一月）。鷗外の引く馬琴の日記は、天保一四年七月二七日の記事である。

「丁子屋平兵衛来る。…八犬伝の事、聖堂附儒者より、林家へ申立、絶版に可成由、ある人被告候者三三人有之、種々心配致、ある人を以て、林家へ内々申入、漸く無異に可納由、被告之」。風説を聞きつけた書店が人に頼んで林大頭（大頭）に愁訴して、『八犬伝』は絶版の難を免れた。

この事件の背景には、株仲間解散と検閲の強化がある。享保七年の出版条例以来、同業組合の書物問屋仲間が責任を持って自己規制して点検し、その上で奉行所の許可を得

て出版していたが、天保一二年一二月の株仲間解散令によつて書物問屋仲間も解散となり、天保一三年より学問所の儒者が一般の民間出版物の検閲を担当し始めた。儒者が輪番で記した学問所日記には、天保一三年九月以降、「刻板物草稿」や「留置之品」を「例之箱」に入れ置いたという記事が散見される。「埒も無キものと判断された」「上木元」からの「浄写」はもとより、「写本」であつても許されず、学問所の「書物算笥」に一時的に保管し儒者の間で「順覧」した上で、是非が決定された。新板書物の草稿については同様に、医書は医学館、仏書はその宗旨の総本山、その後「天文・暦算・蘭書翻訳・世界絵図等の書」は天文方（のちに蕃書調所）の改めを受けることになつていく。

嘉永四年三月の書物問屋仲間の復活とそれ以降の仲間への新規加入者の増加は、幕末の読書熱の高まりを背景に、書物成立数の増加を生む。しかし、学問所官板として出版される点数は、弘化・嘉永年間から激減していった。これに代わり新たに官板に加わつたのは、穀堂の甥である学問所儒者の古賀謹一郎（謹堂）が初代頭取を務めた蕃書調所（のちに洋書調所、開成所）の翻訳書刊行事業であつた。

「福澤氏蔵版」から「慶應義塾蔵版」へ

戯作者の馬琴が書肆との間で原稿料をめくり対立したことは、先の馬琴日記からも知られる。著者と書肆の間の利益配分が一方的に書肆側で決められる体制に反発して、「著

訳社会の大変革」を起こしたのが、自家蔵版として自営出版を始め、自らも書物問屋仲間に入した「福澤屋論吉」である。松沢弘陽氏の推定によれば、「福澤氏蔵版」の翻訳書『雷銃操法』巻之二が、自営出版の第一作であつた。

鷗外の史伝『澀江抽齋』は、抽齋の嗣子澀江保が、福澤の『学問のすゝめ』に加えられた批判に対して、福澤に代わつて記した反論を『時事新報』の前身である『民間雜誌』に投じたことから福澤の知遇を得、浜松の中学校の職を辞して慶應義塾に入学した来歴を載せる。この『学問のすゝめ』二・三編を出版した慶應義塾出版局こそ、近代日本の『大学』出版部の嚆矢である。明治五年八月、朝吹英二を主任に職工二〇〇名以上で開始された事業は、同年『かたわ娘』翌六年『改暦弁』などを刊行し、明治七年に慶應義塾出版社へと引き継がれた。

鷗外の自筆稿に触発され、史伝の登場人物たちをおしめて学術研究と教育活動の接点となる大学出版の源流遡行を試みたが、不明な点は依然数多くある。史伝『北条霞亭』を連載していた当時、鷗外は帝室博物館総長兼図書館頭を務めていた。現在、東京国立博物館に残る古賀穀堂の未刊の文書群は、連載後に鷗外の後続の史伝の材料として収蔵されたものではないだろうか。別の伝承系をたどった鍋島報效会徴古館所蔵の穀堂関係史料と併せて分析することで、鷗外から引き継いだ課題を果たしたいと考えている。

特集

大学出版部の本棚 II

大学出版部協会創立五〇周年の記念号となる今号の特集では、前号に引き続き、各出版部のイチ押しを識者に選定のうえ書評していただきます。選りすぐりの結晶とも言える総計32の作品は、いずれも広く永く読み継がれるべきものです。学問が放つ豊穡な世界を、お楽しみください。

■私が薦める弘前大学出版会の本

『チーム・オール弘前の一年―岩手県野田村の復興支援・交流活動の記録』

(弘前大学人文学部ポランティアセンター編)

中根明夫 (弘前大学副学長)

二〇一一年三月十一日午後二時四十六分、後に東日本大

震災と名付けられる大地震が発生しました。青森県の中でも日本海側に位置する弘前市は震度四と程度の地震でしたが、地震直後に全地域が丸一日停電となり、テレビはもちろんインターネットやモバイル機器もうまく繋がらず、ラジオが頼りの状況でした。また、地震の被害に加え、地震直後に大津波が押し寄せ、死者・行方不明者・負傷者合わせて二万四七九八名(警察庁二〇一二年九月十九日現在の情報)の大災害となったことや、私たちの子孫に及ぶ問題となる福島原発事故が起きたことなど、予想だにしない状況で、暗く寒い一夜を過ごしたことが昨日のように思い出されます。わずか一日のみの経験でしたが、私たちがいかに電気など文明の利器に依存して、というよりはその中にどっぷりと浸っていたかを思い知らされました。もちろん、私の経験はごく些細なもので、被災された方々の苦難は想

像を超えるものです。

さて、その日を境に安寧の日々が崩れた震災地で、さまざまな復興活動が開始されました。そのひとつが本書で報告されているチーム・オール弘前による岩手県野田村の復興支援です。震災当日は、国立大学にとって後期日程入学試験の前日という重要な日でもありました。本書の話は、弘前大学人文学部教員による県外から来た弘前大学受験生への対応から始まります。そして、チーム・オール弘前が結成されました。「チーム・オール弘前」とは、弘前大学人文学部ポランティアセンター、弘前市及び市民からなるチームのことです。

野田村は岩手県の東北部、北上山地の沿岸部に位置する人口五千人弱(震災直前)の村で、弘前から車で片道三時間の距離にあります。野田村の被害は、死亡者三十七名、負傷者十七名、住家流出また全壊三百九棟、大規模半壊百



(2012年, 2100円)

世界的変動に直面する
「大学」の役割と
課題を論じる
初めてのシリーズ
四六判・上製カバー（内容案内進呈）

シリーズ 大学

全7巻

【編集委員】

広田照幸・吉田 文
小林傳司・上山隆大
濱中淳子

【編集協力】白川優治

第1回・第1巻

グローバル化、 社会変動と大学

吉田 文・広田照幸
松本三和夫・松繁寿和
鳥飼玖美子・土屋 俊

国境を越える教育システム、就職市場のグローバル化、知識生産の在り方の変化など、激変する環境に対する大学の模索を論じる。 定価2310円

【続刊】

- 2 大衆化する大学
一学生の多様化をどうみるか
- 3 大学とコスト
一誰がどう支えるのか
- 4 研究する大学
一何のための知識か
- 5 教育する大学
一何が求められているのか
- 6 組織としての大学
一役割や機能をどうみるか
- 7 対話の向こうの大学像

大学と教養教育

一戦後日本における模索一

吉田 文

戦後導入された「教養教育」の変容を追い大学教育の歴史と全体像を俯瞰する、実証研究の力作。

A5判・定価4095円



岩波書店

東京・千代田・一ツ橋
【定価は消費税5%込み】

<http://www.iwanami.co.jp/>

三十六棟、半壊三十三棟、一部損壊三十四棟、避難者数はピーク時九百十二名で全世帯の三〇・六%でした（本書より引用）。チーム・オール弘前の結成やなぜ野田村支援なのかという経緯、さらに支援活動については第一部に書き手を交替して詳細に報告されています。報告は四月十二日から始まりですが、いわば手探りの状態から復興支援、さらに交流へと進展する様子をリアルタイムに知ることができます。そして、野田村の人達と次第に打ち解け、野田村内で「ねぶた運行」がなされるまでになりました。また、報告の中には、「送られてきた物資とニーズのある品物とに、時々ギャップが見られる」といったような現実的な問題も随所に紹介されています。第二部は、ボランティアに参加した市民の方々や学生たちのそれぞれの想いが綴られています。そして最後にチーム・オール弘前の代表者の方々の座談会が収録されています。

チーム・オール弘前と野田村との交流は現在も続けられています。また、それを通して研究成果も着々と出されて

います。弘前大学では二〇一二年十月一日に、全学組織として「弘前大学ボランティアセンター」が設立されました。もちろん、この組織は野田村復興支援・交流活動を主軸としますが、チーム・オール弘前の実績を生かし、大学が地域と一体となってさまざまなボランティア活動を行っていく中核としての機能を発揮していくことと思います。弘前大学の東日本大震災に対する支援については、弘前大学出版会からもう一冊『東日本大震災医療支援活動記録集』（弘前大学医学部附属病院編・非売品）が二〇一二年一月に刊行されました。この図書は、東日本大震災の発生時から始まり、附属病院医師・看護師など医療スタッフの医療支援について克明に記録されていますので、併せて紹介いたします。

東日本大震災の一日も早い復興を願うとともに、震災の記憶が風化せず、今後の災害の対策に大いに生かされることを切に望んでいます。

■ 私が薦める流通経済大学出版会の本

『障害者旅行の段階的發展』(井上寛著)

根橋正一 (流通経済大学社会学部教授)

本書は、みんなが楽しんでる旅行やレジャーを、障害者を含めた誰でもが満喫できるようになるまでの多くの人々の努力と社会の変化についての物語の研究である。

本書では、障害者の旅行の發展過程を三段階に区分して、時系列的に四つの章で論じており、内容は二つの物語が重なりあつて展開していく。すなわち、障害者旅行が紆余曲折しながら發展していく物語とその基礎にある「排除」の変容に関する物語である。少し内容を紹介しよう。

障害者旅行の發展の歴史は、二〇世紀の事であり、今では障害の有無にかかわらず誰でもが、自由に訪れたいところに行き、見たり、食べたり、遊んだりすることができる。鉄道や道路、空港など移動にかかわる施設にはスロープもエレベーターも多機能トイレも設置されているし、観光地やレストランでも法律に従ってバリアフリー化が進んでいて、快適な旅行・レジャー環境が整っている。こうした環

境が作られるには、一九七〇年代以降四〇年近い時間や障害者自身を含め、多くの人々の努力が必要であった。

高度經濟成長とともにレジャーブーム、觀光ブームが到来する一方で障害者たちは旅行やレジャーとは無縁であった。そんななかで、障害者旅行の第一歩は、福祉施設や家に閉じ込められていた人たちの外出したい、車いすがほしい、公共のバスに乗って出かけたという気持ちに端を発した青い芝の会の激しい運動や闘いから始まった。石坂直行は、車いすヨーロッパ一人旅という当時としては冒険的な旅を敢行したが、本人の無謀な行動も現地の障害者にとつては当たり前であったことに衝撃を受けた。電動車いすを手に入れた勝屋光信は、自力で自宅を出て近所の川べりで風が頬にあたるのを体験し、自分の力で自由に動けることの喜びを感じた。こうした体験が障害者旅行実現へのエネルギーになっていった。八〇年代には、国際的な動きが



(2010年, 3150円)

障害者旅行実現への追い風になった。国際障害者年、社会参加を掲げた国連の動きを背景として行政やボランティア組織の活動が活発化し、さまざまなイベントやツアーが計画され、実行され、多くの障害者が社会に出るようになった。さらに、九〇年代には、旅行関連企業が、高齢者と同様に障害者を顧客として受け入れるようになり、他方で障害者の移動や活動を容易にするための法整備も進んで、社会全体が障害者旅行に理解を示した。

この第一の物語に加えて、「排除」をめぐる第二の物語が重なっていく。

高度経済成長は、大量生産システムによる工業発展を実現し、豊かな社会を建設するものであったが、工場労働に参加できない障害者は、福祉施設に収容され、あるいは自宅に閉じ込められた。豊かになった労働者にはレジャーブームがやってきたが、障害者にまで届くことはない。著者はこうした旅行からの排除を「隔離型排除」と命名している。八〇年代「参加」の目標のもと計画された活動に多く

の障害者が参加したが、それは健常者とは一線を画した、主権者に守られた障害者だけの活動であった。「分離型排除」と名付けられる。その後業界の動きや法的には、障害者に対して排除から包摂へと向かい、障害者の旅行環境は整っていった。にもかかわらず、「障害者支援法」は再び障害者の旅行を困難な状況に向かわせる。社会全体が非正規雇用、格差拡大の中で旅行できない人々を増加させ、旅行離れ世代を出現させていることは無関係ではないだろう。

本書は学術的な研究書であるが、障害者旅行実現のために尽力した障害者、業界関係者、ボランティア活動家などに多数の人々からの聞き取りデータに基づいて、「自分の意思で、一人もしくは行きたい仲間と、行きたいところへ行く」旅行実現に向けた努力や仕事、生き方が生き生きと記述された集団劇のような作品でもある。石坂、勝屋、草薙威一郎のような主役級に加え脇役たちが舞台を輝かせている。多くの方に一読していただきたい一書である。

生命起源論の科学哲学

創発か、還元的説明か

マラテル 生命の出現を物理的・化学的原理によって解明する可能性を提示する。パリ大学総局賞受賞。佐藤直樹訳 ¥5460

善意で貧困はなくせるのか？

貧乏人の行動経済学

カーラン／アベル 人間心理の欠点を回避する貧困削減策の最先端。新・開発経済学の決定版。清川幸美訳 澤田康幸解説 ¥3150

合理的選択

ギルボア ミクロ経済学、ゲーム理論、意思決定理論のエッセンスを平易な言葉で語る経済学からの贈物。松井彰彦訳 ¥3360

日系ブラジル移民文学

日本語の長い旅 [全2巻]

細川周平 「母国語社会の絶対的周辺性のなかで、読み、書いた」移民の文化史。ライフワーク完結。I [歴史] II [評論] 各¥15750

冥府の建築家

シルベール・クラヴェル伝

田中 純 未来派演劇、小説『自殺協会』そして岩礁の洞窟住居。神話と妄執を求めた知られざる芸術家、世界初の評伝。 ¥5250

マックス・ウェーバーの日本

受容史の研究 1905-1995

シュヴェントカー なぜ日本でこれほど読まれるか。受容の始まり、レーヴィット、大塚、丸山、現在まで。野口雅弘他訳 ¥7875

大戦間期の宮中と政治家

黒沢文貴 大正デモクラシーからファシズムへ。「宮中某重大事件」、浜口雄幸の虚像と実像など人物群像から時代を読む。 ¥4200

東京文京本郷 5丁目32-21 **みすず書房**
tel. 3814-0131 fax 3818-6435 (税込)
http://www.mszz.co.jp

■私が薦める聖徳大学出版会の本

『二人ひとりのニーズに応える保育と教育―みんなで進める特別支援』 (聖徳大学特別支援教育研究室編)

河村 久 (聖徳大学児童学部教授)

障害のある子どもに対する保育と教育は、特殊教育から特別支援教育へと大きく転換し、インクルーシブ教育を指向して一層発展しつつあります。特別支援教育では、障害等によるさまざまな学習上・生活上の困難を、一人ひとりの子どもの教育的ニーズとしてとらえ、それぞれのニーズを的確に把握し、必要な支援を生涯にわたって一貫して行うことを目指しています。そのため、すべての園・学校において計画的・組織的に支援体制を整備し、幼稚園や保育所における遊びや生活の在り方、小・中学校等における授業や学級経営の在り方を、一人ひとりの子どものニーズに対応できるよう見直していかなばなりません。このことは、障害の有無にかかわらずすべての子どもたちの保育・教育を見直すということです。したがって、すべての保育者・教師がかかわり、当事者である子ども、保護者、関係機関と連携して取り組むべきものです。本書の副題を「みんな

で進める特別支援」とした理由でもあります。

特別支援教育にかかわる図書は、近年多数出版されるようになりました。しかし、しばしば難解であったり、大部であったり、いわゆるハウツーに偏ったりと、初学者に分かりやすく、なおかつ、基礎的・基本的な事項を偏りなく解説した図書は必ずしも多くはない現状です。本書は、これらのことを踏まえて作成されています。

第一に、コンパクトであることです。A5判二〇〇ページ余のハンデイスイズとすることで、持ち運びの便が図られています。

第二に、一冊で全障害について、子どもの理解と指導・支援に必要な最低限の基礎的な知識を盛り込んであることです。全体を12章構成とし、第1章で特別支援教育の基本について解説するとともに、第2章から第9章までに、視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚



(2011年, 1600円)

弱、発達障害、情緒障害、及び言語障害の各障害について取り扱っています。

第三に、幼児期及び児童期（小学生期）に焦点を絞り、初期段階における適切な指導・支援を行うためのノウハウが充実していることです。第10章では幼稚園・保育所における保育の実際、第11章では、小学校の通常の学級における指導の実際について具体的に解説しています。

第四に、国の動向や学会等の研究動向を踏まえ、最新の情報が提供されています。

第五に、「みんなで進める特別支援」という趣旨に沿って、保護者や関係機関との連携についても第12章で言及しています。

最後に、参考資料として、「災害時の障害児への対応のための手引き」（日本児童青年精神医学会）を掲載しています。これは、東日本大震災において多くの障害のある子どもたちが適応上の困難等に苦しんだ経験から、危機管理・対応について学ぶ必要があると考え、著作者の許可を得て急遽

掲載したものです。

本書は、直接的には保育士や教師を目指すすべての学生の学習のためのテキスト・参考図書として作成されたものです。本学では、障害児心理学や障害児保育、児童学の保健学的基礎などの科目の一部でテキストとして活用しています。しかし、現職の先生方や保護者、関係者が特別支援教育の全体像を概観し、正しい理解を得るための参考書としても十分活用できるものとなっています。校内研修、園内研修のテキストや初任者研修の資料として活用することも期待できます。また、保護者が自分の子どもについての理解をより深めたり、保護者グループでの学びの参考として利用することも可能です。

本書は、これから保育士や教師を目指すすべての学生、現職の方々、保護者・関係者の皆様に活用していただくことにより、必ずやインクルーシブな教育システムのもとでの特別支援教育の充実に資する有益なツールとなるであろうと考えます。

新刊案内

川上忠雄著 一八四七年恐慌

菊判・三五〇頁・五八八〇円

本書は、古典的恐慌の一つ一八四七年恐慌の研究である。恐慌はなぜ起こったのか、好況期の資本蓄積の中に原因を探る。

松尾昌樹著

オマーンの国史の誕生

A5判・二三〇頁・五〇四〇円

オマーン人と英植民地官僚によるオマーン史表象。英植民地官僚による歴史の纂修とオマーンに命政府による自己表象。オマーン史の産出と伝達そして隠蔽の痕跡を読み解く。

永野善子編著

A5判・三二二頁・四八三〇円

植民地近代性の国際比較

——アジア・アフリカ・ラテンアメリカの歴史経験——
植民地的要因が植民地時代に限定されず、独立後にも残滓として社会の底辺を形づくっている現実を直視する。

高橋一行著

A5判・一六〇頁・二九四〇円

知的所有論

ジジエクを導きの糸に、ヘーゲル論理学のみが知的所有の論理と情報化社会の特質をうまく説明できると考える。

御茶の水書房

〒113-0033 東京都文京区本郷5-30-20
電話03-5684-0751
http://www.ochanomizushobo.co.jp/

■ 私が薦める慶應義塾大学出版会の本

『読むと書く 井筒俊彦エッセイ集』(井筒俊彦著／若松英輔編)

納富信留 (慶應義塾大学文学部教授)

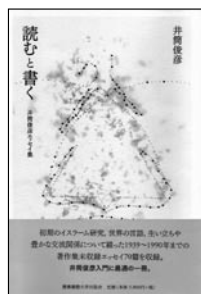
私が最初に読んだ井筒俊彦の本は、『意識と本質』(岩波書店、一九八三年)だった。大学に入学後しばらくして、哲学を議論する友人から「すごい本が出ている」と薦められ、早速手にして読んだ。何度も、読んだ。ただ、始めの三章くらいだった、と思う。難しくて先に進めなかった。西洋の詩や哲学からイスラーム神秘主義、仏教、中国古代思想まで、縦横無尽にくり広げられる論述は、ちょうど最初に登場するサルトルの「マロニエの根」のように、私にはグロテスクになにかを露呈させるだけだった。

井筒俊彦が亡くなったのは、一九九三年一月。イギリス留学中の私は、そのニュースに接しなかった。ただ、日本でも当時大きくは取り上げられなかったようである。その後も、井筒の学問上の位置づけや膨大な研究の総体評価は定まっていない。学派や弟子を作らず、専門分野を越えて広範な思索と著述を展開したがゆえに、その全容を引き受

ける者が出ていない、それが実情であろう。

没後二十年が経つ今日、屹立するこの巨人をどう読んでいくかが、問われている。二〇一一年、若松英輔による評伝『井筒俊彦 叡知の哲学』(慶應義塾大学出版会)が出て、生い立ちから晩年に至る同時代の思想地図を鮮やかに描き出した。英文学から学問の世界に入り、東洋哲学に終るといふ特異な軌跡のため、日本近代思想史に正統な地位をもたない井筒は、実はきわめて多角的で豊かな知的交流——外国と日本、過去と現在の往還——のなかで、自らの思索を展開していたことが分かる。

『コーラン』の翻訳を始め、イスラーム研究者として知られた井筒であったが、私は自身の出会いから「コトバの哲学者」というイメージを強く抱いてきた。それは、慶應義塾での西脇順三郎への師事、そして哲学的意味論研究という基盤から、正しい理解であったと確認される。



(2009年, 2940円)

評伝の基礎に、若松自身が編集したエッセイ集『読むと書く』がある。名だたる名著に圧倒されがちになか、井筒が折々に発表した単発の論文やエッセイも忘れてはならない。質の高い論考や、紹介や回想をつづった筆致に、半世紀に及ぶ思索の筋が浮かび上がる。井筒俊彦とは何だったのか、その哲学の意義を見つめ直すための、最良の出発点となる。なによりも、彼のエッセイを気の向くままに読んでいくことは、実に楽しい経験である。

彼の人生においても思索においても、頂点となる出来事が「エラノス会議」への参加であった。アンリ・コルバン、ミルチャ、エリアーデラと親密に議論し、思索をまとめ講義するという緊張の経験は、井筒の哲学を究極まで深め、また世界と歴史に礎を降ろす機会を作った。二〇世紀の「知性」（とりわけ「西洋」）により深い地平から反省を促し、多分野から総合的な視点で未来を形づくろうとしたエラノスでの議論は、一九四九年刊『神秘哲学、ギリシアの部』（復刊、慶應義塾大学出版会、二〇一〇年）から出発した井筒の問題関

心に、もつとも恵まれた刺激と対話をもたらし、後半生の著作活動に生命を吹き込んだのである。

経済・物質至上主義、東西文明の対立、政治・軍事力の衝突、西洋哲学の動揺といった今日的な状況で、井筒が論じる諸テーマは、ややもすれば幻惑的な現実逃避か、危険な非科学志向とも受け取られかねない。しかし、「超越」や「宗教」をともに考究することなく、この世界や人生に道は拓けない。イスラーム神秘家の体験、禅や易の伝統を極める井筒の思索が示す射程は大きい。

プラトンを研究する私自身にとっては、「プラトンの弁証家は後世的意味に於ては神秘家である」「イデア論は必ずイデア体験によって先立たなければならない」（『神秘哲学』）といった井筒の洞察が、哲学研究の意義を根底から問う言葉として立ちはだかる。そうして、井筒の著作を読む、彼が論じる事柄に「難しい」という思いにまた襲われるのは、私たちが今日、そういった思考や体験の基盤をなにか決定的に欠いているからかもしれない。

転換期を読む16 私の人生の年代記 ストラヴィンスキー自伝

ストラヴィンスキー著／笠羽映子訳 稀代の音楽家が綴る半生記。音楽との出会いから、革命と戦争に翻弄された青年時代、ディアギレフ、ニジンスキーらとの共作の日々を経て、世界を駆けめぐる演奏旅行の幕開けまで。

リュール美術館の闘い グラッセルで誕生をめぐる攻防

ジャック・ラング著／塩谷敬訳 ルーヴル宮大改造計画の渦中においていかに激しく争われた政治家の手腕と冒険的試み。ガラスのピラミッドをめぐる熾烈な文化闘争の物語。

◆二二二五円

現代世界④ その思想と歴史

リベラル・デモクラシーとソーシヤル・デモクラシー

田中浩編 近現代政治思想史におけるこのデモクラシーの対立・相補・継承関係を問う。3/11以後の社会保障・公共性の問題まで論ずる。

書簡で読むアフリカのランボー

天才少年詩人として一世を風靡したあと二十歳すぎからアフリカの砂漠地方で一介の商人として短い一生を終えたランボーの類いまれなる評伝。詩人をやめたあとの後半生を描く。

◆二二二〇円

〒112-0002 東京都文京区小石川3-7-2
tel 03-3814-5521
http://www.miraisha.co.jp/
★出版図書目録無料進呈いたします★
※価格は税込

■私が薦める産業能率大学出版部の本

『社会人のための法律入門』（齊藤 聡著）

齊藤 聡（産業能率大学経営学部教授）

現在、日本経済は成長の曲がり角にきている気がいたします。持続的発展を今後継続していくためには、どこを見直せばよいのでしょうか。私は多くの見直すべき点があると思いますが、その中でも発想法とマーケティング手法が中心ではないかと思っています。

発想法とは、新しいことを考えてそれを古い文化や昔からある制度に応用したり、まったく新しいスタイルの販売方法や使い方を考案したりすることです。例えば、日本の携帯電話で中でも人気のあるアップル社のiPhoneは、その部品構成をみると主要部品の多くが日本製であり、全体の五〇%以上が日本製の部品です。また、ボーイング社の最新鋭の機であるボーイング787は、その機体の七〇%弱を、海外メーカーを含めた約七〇社に開発させる国際共同事業でした。これによって開発費を分散して負担できるとともに、世界中の最高技術を結集した機体になることを想定し

ています。日本からも三菱重工業を始めとして数十社が参加し、その担当比率は合計で三五%と最大となっています。この数字はボーイング社自身の担当割合と等しいものとなっています。こうした他国の技術を導入しながら利益を自国に導く方法は、米国企業の発想の柔軟さとマーケティングの勝利といえると考えます。現在は初期のトラブルが発生し、さまざまな調査が続いていますが、このトラブルも新しいチャレンジによるもので、これが解決できれば、このトラブル自体も今後の大きなノウハウになると思います。

私は、日本が技術的な優位や製造ノウハウを保持している間に、先にあげたような不足している部分を補うべきだと思います。そのために、従来よりも幅広い分野の知識を大まかにかまわないので、身に付けていく必要があります。経営学の基本は、人それぞれの特性と長所短所を見極めな



(2011年、2100円)

から、その能力を最大限に引き出す組織や仕組みを構築することです。先の例では、それを国際的な規模で実現しています。世界に存在する幅広い分野をすべて学習し、身に付けることはできません。しかし、それぞれの大きな知識は必要だと思えます。専門的なことは専門家に依頼すれば良いのですが、それに至るまでの発想段階や情報を入力し決断するまでの段階では、全体を見渡すための幅広い知識が必要になります。

こうした幅広い知識を得るために本があると私は考えます。その例として、私の著書で恐縮ですが、『社会人のための法律入門』を紹介いたします。本書は、日常生活や会社での出来事を法律面から、その基本的な考え方を紹介した法律の入門書です。はじめに実務で必ず必要になる六法（憲法、民法、商法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法）を紹介し、要点のみを説明しています。その後で通常の会社での営業行為や日常生活で起こる可能性の高い事例（事例）について、分かりやすく解説したものです。

法律については、ビジネスを行っていく上で遵守していかなければならないものであり、必ず知っておかなければならない知識ですが、実際のビジネスを行っていく上においては、数多く存在する法律について理解しておく必要はなく、自分の仕事において必要な部分などを知っておくだけで十分と考えられています。しかし、法律全体の大まかな知識を持つていけば、新しいビジネスチャンス思い起こす（ひらめく）ためにも役に立ちます。例えば、インターネットが急速に普及し、その存在は社会で必要不可欠なものになりましたが、それを正しく使うための法律は不完全です。既にさまざまな事件が起きていますが、それを取り締まるための法律が追い付いていません。そこで法律が作られますが、それらに先んじて対応することで新しいビジネスが生まれることもあります。

幅広い知識を身に付けるために、幅広いジャンルの基本書を読むこと。私は、日本が飛躍していくために必要なのだと考えています。

沖縄の基地はなぜ減らないのか？

〈沖縄〉 基地問題を 知る事典

前田哲男・林 博史・我部政明編
沖縄返還・普天間基地移設・オスプレイ…。基地問題がわかる40テーマを取めた注目の書。2520円

いま、日本人にとって神社・神道とは？

事典 神社の 歴史と祭り

岡田荘司・笹生 衛編 厳選した六十社が映し出す人々の営みと信仰。巻末付録も充実。3990円

環境の日本史 全5巻刊行中

② 古代の暮らしと 祈り

三宅和朗編 5040円
古代の人々の暮らしと自然環境との関わりを描く。(第3回配本)

③ 中世の環境と 開発・生業

5040円
井原今朝男編 中世の自然観や生業知が指し示す、現代の危機解決へのヒントとは？(第4回配本)

“明治”を知れば“いま”が見える！

明治時代史 大辞典

全4巻 刊行中
第3巻(に～わ)1月発売
宮地正人・佐藤能丸・櫻井良樹編
激動の明治時代を理解するための約9500項目を収載。29400円
1・2巻発売中=各29400円

浮世絵出版論

大量生産・消費される(美術)
大久保純一著 絵師と絵草紙屋の舞台裏に迫り、商品としての実態を描き出す。3990円

吉川弘文館

〒113-0033・東京文京区本郷7-2-8
電話03-3813-9151 / 価格5%税込

■私が薦める玉川大学出版部の本

『リーディングス 日本の高等教育』（橋本鉞市・阿曾沼明裕 企画編集）

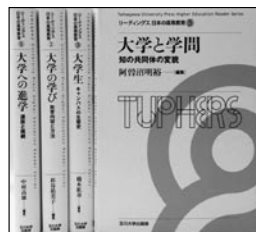
西山雄二（首都大学東京都市教養学部准教授）

一九九一年の大学設置基準の大綱化、二〇〇四年の国立大学の独立行政法人化といった改革によって、近年、日本の大学は急激な変容を遂げてきた。大学は国際競争の荒波のなかで知識基盤社会の重要拠点として期待されているが、教職員や学生のみならず、社会の側からも大学の自己像の再検討が要請されている。競争と批判にさらされる日本の大学は以前よりも開放的で、活動的で、生産的になったかもしれない。大学は目まぐるしく「何かを行ってはいない」のだが、しかし、大学の理念と現実の全体像を把握しにくい状況である。就職に向けて実用的な教育が重視されるなかで、教養教育と専門教育はいかに有機的に連携し合えるのか。研究の専門化が進む一方で、文理を横断し融合する学際的研究が奨励されるものの、その実効的な成果はなかなか見えない。情報化社会は大学の知に深刻な影響を与えているが、ウェブ世界では知の断片化や平板化が進

み、階層秩序をとまなう体系的な知の観念を蔑にしている。

大学教職員のみならず初学者や専門外の読者などを含めて、大学に関心を寄せる者が必要としているのは、近過去から現在に至るまでの、大学に関する概括的な地図である。そうした有益な地図として、『リーディングス 日本の高等教育』（全八巻）は戦後六〇年にわたる高等教育が各主題ごとに通観できる好シリーズである。編者の適切な選出によって過去の代表的論考が配置され、読者は大学の諸事象に関する基本知識と社会背景を理解することができる。

『大学への進学』と『大学から社会へ』の二巻では大学の入口と出口が問われる。進学率の上昇、教育拡大をめくつて、高等教育の大衆化、受験戦争の問題、選抜制度のあり方、高校と大学の接続が概観され、大卒者の労働市場の変動や大学のキャリア支援やキャリア教育の質保証が分析される。教育内容と方法に関する『大学の学び』では、大学の



(2010-2011年、各4725円)

藤原書店

岡田英弘監修 (清朝史叢書) 発刊
康熙帝の手紙

岡田英弘 清朝の公用語である満洲語の手紙を紹介しながら、当時の東アジアを見渡す。 3990円

最後の転落

ソ連崩壊のシナリオ

E・トッド 1976年、25歳でソ連の崩壊を、乳児死亡率の増加に着目し、予言した書。石崎晴己監訳 3360円

ユーロ危機

欧州統合の歴史と政策

R・ボワイエ レギュラシオンの旗手による、独自のユーロ危機分析。山田鋭夫・植村博恭訳 2310円

日本のアジア外交 二千年の系譜

小倉和夫 二千年に亘る日本とアジアの「抗争の背景」を探る中で、アジア外交の明日のビジョンを考える必読書。 2940円

石牟礼道子全集・不知火

第16巻 新作 能・狂言・歌謡ほか
エッセイ 1999-2000 4巻3冊
蘇る鎮魂と救済の芸術。解説・土屋恵一郎/月報・松岡正剛他 8925円

「日米関係の核心は、中国問題にあり。」

学芸総合誌 季刊 **環** 歴史・環境・文明

vol. 52 2013年冬号

(特集) 日-中-米関係を問い直す
アメリカとは何かIII

R・ボワイエ/宮脇淳子+倉山満/高銀/川瀧信一/川勝平太/小倉和夫ほか

(小特集) 脳性性水俣病患者の現在/加藤タケ子ほか(後藤新平の会シンポジウム)「チャールズ・ビードと後藤新平」(シンポジウム)服部東二ほか(連載)赤坂恵雄ほか、 3780円

月刊 **機**

B6変32頁 2月号 No.251
松岡正剛/土屋恵一郎
/小倉和夫/山田鋭夫・植村博恭/貝瀬千里/大音寺一雄/春山明哲/李相哲/柏谷一希/加藤晴久/一海知義ほか

年間購読料2000円(送料込) ©見本誌・ブックガイド呈 *表示価格税込

〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町523
販替 03160-4-17013 TEL.03-5272-0301
ホームページ http://www.fujiwara-shoten.co.jp/

教育理念、カリキュラムやシラバス、組織、授業、評価が分析される。『大学生』では、大学生の生歴史が、社会的地位やアイデンティティの模索、キャンパス内外での生活、政治的・思想的な活動、大学への不適応といった苦悩、高等教育制度の柔軟化による学生の多様化といった軸で整理される。国家による統制と国家からの自律・自由という葛藤を描く『大学と国家』は重要な巻だ。日本の大学が戦後に量的・質的に展開するなかで、その制度と政策はいかに変化してきたのか。『大学のマネジメント』と『大学とマネー』からは大学と経済的論理・現実の関係が浮かび上がる。大学組織や研究教育にマネジメントの論理が意識されてきたことと体がひとつの歴史を形成しているが、マネジメントの実践はいかに大学の自治を変容させたのか。また、大学が家計や政府、企業等とやり取りするマネーの流れはいかなる経済的効果と研究教育の成果をもたらすのか。私自身が研究者であるため、『大学と学問——知の共同体の変貌』は最も関心を引く巻である。学術研究の主要素

が大学教授職、学会・専門分野、研究体制・政策、大学院、社会との関係に分類され、その現状と課題が指摘される。とりわけ興味深いのは日本の特異性である。非流動的だった日本の大学教授市場はいく分開放的になったものの、有名大学出身者が依然として有利な学閥の世界である。日本の教員の特徴として、大学自治を重視し、研究への異常な志向をもつが授業評価には抵抗感を抱く。大学教授職が多様化するなかで、非常勤講師や任期付研究員、ポストクの問題が顕在化しているが、高学歴者のキャリアパス多様化の困難が日本の大学院教育の出口を狭めている。大学の将来に向けて改善すべき課題である。

過去から現在に至る道程を俯瞰するために、本シリーズは見通しの良い地図の役割を果たしてくる。改革や競争の時流に後押しされるとはいえ、歴史と現実を概観できる地図があるからこそ、大学は直往邁進するのみならず、ときに緩行し、漂泊し、迂回し、道に迷いつつ知性の冒険を続けることができるのだ。

■ 私が薦める東京電機大学出版局の本

『父マルコーニ』（デーニャ・マルコーニ・パレーシエ著）

脇 英世（東京電機大学工学部教授）

本書は大西洋横断無線通信に初めて成功したグリエルモ・マルコーニの伝記である。普通の伝記と多少違うのは、マルコーニの娘が書いた伝記ということだ。また本訳書は重訳でなくイタリア語から直接翻訳した点で価値がある。

高校や中学で習う電磁気学はいくつもの法則があって、右手や左手の指を使ったり、むやみな暗記に悩まされることになるが、実は勉強がもつと先へ進むと、ずっと簡単になる。ジェームズ・クラーク・マクスウェルが集大成した電磁気学の法則は、わずか四つのベクトル方程式にまとめられる。つまり電磁気学のあらゆる現象が、この四つの方程式だけから導かれる。

さて、このベクトル方程式を変形していくと、比較的簡単に波動方程式が出てくる。つまり驚くべきことにマクスウェルの理論から、それまで検証されていなかった電磁波というものが存在して、その伝わる速度が、実は光と同じ

ものだと予言できた。光は電磁波の一種であるとはほぼ確実に理論的に推定できた。ところが、肝心の電磁波を発生させることはマクスウェルにはできなかった。

実際に電磁波を発生させたのはハインリッヒ・ヘルツである。ただヘルツは電磁波の存在を実験的に証明できても、電磁波の通信への応用には乗り出さなかった。夭折したからではない。物理学者だったからである。

電磁波を長距離通信に使えるように実用化したのは、一八七四年、イタリアのポローニャに生まれたグリエルモ・マルコーニである。マルコーニの母親アニー・ジェイムソンの実家は有名なアイリッシュ・ウイスキーの製造元であるジェイムソンである。この出自はマルコーニの無線通信事業の遂行には人脈的にも資金的にも有利であったろう。

マルコーニは、学齢期にも資金的にも有利でなかったため、海軍大学にもポローニャ大学にも進めず、ポローニャ



御船佳子訳
(2007年, 2625円)

大学のリーギ教授の研究室に出入りする以外は、ほぼ独学であった。ただし貧乏であったからではない。むしろ豊かであった。マルコーニは自宅の最上階を研究室にして閉じこもり、一人で電磁波の実験を繰り返し、研究を進めた。

マルコーニはこれを実用に供するには、通信を所管する郵政省に売り込むことだと考え、イタリアや英国郵政省に接近する。実際には海軍やロイド保険会社の方が熱心だった。

一八九七年、英国にマルコーニ無線信号会社が設立された。マルコーニの関心はひたすら伝搬距離を伸ばすことにあり、ソールズベリー平原での実験以後、一八九九年ドーバー海峡横断無線通信に成功し、一九〇四年にはついに念願の大西洋横断無線通信に成功する。

一九〇九年、マルコーニはノーベル物理学賞を受賞した。その辺りまでが第21章までである。

マルコーニの偉大な所は、電磁波が直進性を持つ光の一種だから、地球の曲率に打ち勝って見通し外伝搬はできない

いという大方の物理学者の意見を無視して、長距離通信の実験を続行したことである。当時、電離層の存在は知られていなかったから、電磁波は地球の外に出て行ってしまいうだろうと考えられていた。もっともな結論である。

また当時、増幅器は存在しなかったから、非常に背の高いアンテナと強力な電源を必要とした。マルコーニの無線通信事業は、当時の物理常識を無視し、さらに膨大な資金投下を必要とする冒険的事業であった。その辺りの苦心や苦悩も垣間みることができて興味深い。

後半の第22章からはマルコーニの後半生が紹介されている。熱烈に愛し合って結婚したはずの夫婦の関係が冷却し、新たな妻を迎え、死に到るまでの様子が描かれる。電磁波の教科書には書いてないようなことが多く、興味深い。

マルコーニが音楽好きだったことや、プッチーニの邸でのプッチーニによる「トゥランドット」の演奏など意外さに驚かされる。

是非一読をお勧めしたい。

東大の 数学入試問題を 楽しむ

数学のクラシック鑑賞

長岡亮介

東大の入試問題は、数学的奥行き・広がりをもった良問が多い。すなわち《古典》である。入試の古典から真の《数学力》を身につけよう。

■2310円

この本の名は？

嘘つきと正直者をめぐる
不思議な論理パズル

レイモンド・M・スマリヤン
川辺治之 訳

論理パズルの泰斗「スマリヤン」の名を世に知らしめた1978年出版の記念碑的名著の全訳、ついに刊行！
■2,520円

大学数学 ベーシック トレーニング

和久井道久 / 著 ■2,310円

大学数学を学ぶための“基礎体力”をつける本。学びの心構えや、数学の基本概念、現代数学特有の厳密な論証体系などを懇切に解説。

金融政策の フロンティア

国際的潮流と非伝統的政策

翁 邦雄 / 著 ■3,150円

非伝統的政策に代表される金融政策の新たな枠組みについて理論的に整理し、これからの金融政策を考える足掛かりを提供する。

表現の自由と メディア

田島泰彦 / 著 ■4,515円

マス・メディアにおける表現の自由を思想的に検討したうえで、ネット時代の反論権、新聞の情報源等、重要課題を論究する。
*表示価格税込

日本評論社

〒170-8474 東京都豊島区南大塚3-12-4
TEL:03-3987-8621 <http://www.nippsy.co.jp/>

■ 私が薦める東京農業大学出版会の本

『旨みを醸し出す 麴のふしぎな料理力』(前橋健二・浅利妙峰著)

橋詰嘉人 (東京農業大学出版会理事)

最近、塩糍をつかった料理がブームになっています。塩糍は昔からあったものらしいのですが、これを元禄二年創業の「糍屋本店」の女将、浅利妙峰さんが、古文書「本朝食鑑」の中に見つけ、工夫して塩糍をつくり料理に使ってみたところ、これが大変おいしかったので世に紹介したのがブームの火付け役になったようです。

浅利さんは、「塩糍を料理に使うと、理屈抜きでおいしいくなることは経験的に知っていました。でもなぜそうなるのかはまったくナゾの世界でした。」と言っています。

これを本書で科学的に解説したのが、東京農業大学醸造科学科准教授、博士(農芸化学)の前橋健二さんです。

著者の前橋さんによれば「清酒、みそ、しょうゆなど日本の発酵食品の特徴は、麴の酵素力で、原料成分が分解され、豊かな味わいが生れるところにあります。清酒製造では米麴の酵素で米を糖化して酵母のアルコール発酵源をつ

くり、みそやしょうゆの製造では麴の発酵力で大豆を消化し成熟させます。」

「醸す」は焼くや煮ると並ぶ調理法のひとつだということです。

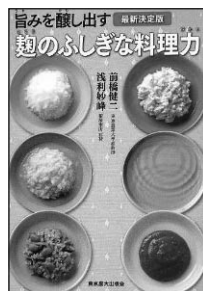
この本では、塩糍のつくり方を紹介し、その成分がどんなものでできているかを解説しています。

その一 肉が柔らかくなるヒミツ

肉を塩糍に漬けて調理すると柔らかくておいしく仕上がるのは「塩糍のプロテアーゼが筋原繊維を分解して肉質を軟化させる……」ことを、肉タンパク質へのプロテアーゼの作用の図によってわかりやすく解説してあります。

このプロテアーゼが塩糍(麴カビ)には豊富に含まれており、タンパク質を分解する酵素だけでも一〇〇種類以上の遺伝子をもっているということです。

その二 うまみを増すヒミツ



(2012年, 1260円)

それは「塩糍のアミノ酸が食材によく浸み込むだけでなく、塩糍のプロテアーゼが肉タンパク質を分解し、さらに塩糍または肉自身もつペプチダーゼの働きにより、アミノ酸やペプチドが増えるため……」とし、その作用が詳しく解説されており、また、種々の食材を塩糍漬けて焼いたときのグルタミン酸量の比較が図示されています。

その三 甘味を増すヒミツ

「塩糍にはデンプンを分解し、ブドウ糖を作る酵素が含まれているので、デンプン質素材と塩糍を絡み合わせればやさしい甘味が期待できます。塩糍に含まれるデンプン分解酵素であるα-アミラーゼはデンプンを小さなオリゴ糖に分解して液化させる働きがあり、グルコアミラーゼはさらにブドウ糖にまで分解して甘味を作ります。」

その四 野菜がおいしくなるヒミツがやっとなわかつた
紙数の関係で省略しますが、野菜ぎらいの子供がいたら、一読をお薦めします。

多くの人が経験的においしいというものを、調味研究者

の前橋健二さんが科学的に解説を加えたのが本書の特徴と言えるでしょう。

さらに、浅利妙峰さんによる塩糍の特徴を生かした四十種余りのレシピを、肥沼正一氏撮影によるカラー写真入りで紹介しています。

○むね肉がも肉のような深みのある味わいに、また見た目にも美しい「チキンのディアボラ風」料理

○魚介類のおいしさを引き立てる蒸し料理

○イカのアクアパッツアは白ワインにぴったり

○温野菜のバーニャカウダ

など、肉、魚、野菜をつかった種々の料理が紹介されています。

イカ、ブリ、タイの刺身に塩糍をつかったタレを三種類、刺身といえ古来からしうゆとワサビに決まっていたように思いますが、このような変わった刺身のタレも是非賞味していただきたく紹介しました。

農文協

異常な契約

TPPの仮面を剥ぐ

Jane Kelsey 編著

●2,730円

動植物検疫食品安全、政府調達、知的所有権、サービス、金融、投資、労働安全保障、アグリビジネス農村生活、温室効果ガス排出や地球温暖化対策などで、TPP参加国やその国民、先住民などが受ける影響を広範囲に分析

TPPと日本の論点

22氏の反対論集 農文協編

●840円

政治、経済、財政、金融、医療、食、労働市場、環境、地方自治等TPPがもたらす災厄を解剖。

恐怖の契約

米韓FTA

宋基昊著 ●840円

貿易、非関税障壁、投資、健康保険、土地問題、学校給食、農業、公共分野など多岐にわたる危険。TPPへの警鐘。

壊国の契約

NAFTA下メキシコの苦悩と抵抗

Elizabeth Fitting 著

●2,730円

北米自由貿易協定NAFTAがメキシコにもたらした災厄を丁寧な取材や農村フィールド調査で検証。自由貿易論のまやかしを突く。

食料主権の

グランドデザイン

村田武 他著

●2,730円

忍び寄る世界食料危機と食料安全保障問題を解決するための多角的処方箋。TPPの問題点も解明

<http://www.ruralnet.or.jp>

TEL 03-3585-1142

fax 03-3585-3668

※価格は税込

■ 私が薦める法政大学出版社の本

『ものと人間の文化史 71 木炭』（樋口清之著）

鬼頭 宏（上智大学経済学部教授）

法政大学出版社の「ものと人間の文化史」は、第一巻の『船』が一九六八年に刊行されて以来、点数が積み上げられて、二〇一二年には一六〇点を越えた。取り上げられた「もの」は多岐にわたり、植物、動物、鉱物、燃料、衣服、道具、器具・機械と非常に幅広い。ものに関する現代の故事類苑である。筆者が本シリーズから、樋口清之氏の『木炭』を取り上げたのには理由がある。

第一は、ものや自然と人間の関係を通して日本人のくらしの古層を明らかにしようとする本シリーズの試みに共感するからである。このシリーズが刊行されはじめた頃、生活史に興味をもっていた筆者は、常民文化研究所でアルバイト研究員として古文書整理をしたり、さまざまな専攻の院生同士で科学技術史研究会を結成して勉強会を開いていたので、大いに刺激をうけたものであった。

第二に、樋口氏が取り上げた木炭は、いま、エネルギー

源としての地位を低下させたものの、再生可能な資源としてはもとより、別の面からも注目されていることである。

肥料、木炭、薪の利用など、人間の積極的な関与によって生み出された里山は、明るい林床に季節ごとに美しい花を咲かせ、いろいろな小鳥、蝶などの動物が集まる、心楽しく、美しい環境となっている。このように二次的な自然環境として里山の機能が見直されているが、持続的に存続させようとするならば里山の資源を利用する必要がある。

樋口氏は考古学や日本文化史の発展と啓蒙に大きな貢献をされた歴史学者で、「梅干し博士」として一般にも広く人気があった。しかし『日本木炭史』（社団法人全国燃料会館日本木炭史編纂委員会編集、一九六〇年三月発行）という大著の編纂にたずさわったことはあまり知られていない。この本は全国燃料会館が日本木炭史の刊行を事業として取り上げたことに端緒があった。この事業への樋口氏の参加要請は



(1993年, 3150円)

一九五七年秋であったというから、資料収集、編集、執筆と、わずか二年半で刊行されたことになる。

「木炭は元来学会では文字なき文化と呼ばれて、体系的な木炭史などできない」（編集余録）といわれていたが、樋口氏はこれに挑戦して、文書史料や民俗学的手法を駆使して、通説を覆す業績をなしたのである。本編一二〇〇頁のほとんどは樋口氏の筆によると推測される。だがこの大著も樋口氏の満足するものではなく、木炭経済史でしかないという、「いつの日か……木炭文化史を世に送ることのできる日の来ることを心より期待してやまないのである」ということばで編集余録を結んでいる。

樋口氏の総合的な日本木炭史の構想は、ものと人間の文化史の『木炭』によつて実現されたといえる。本書は総ページ数三〇〇頁に満たないものの、第一部を日本文化と炭、第二部を木炭史話と題して、おもに文化的な話題を提供している。両著をあわせ読むことで、日本人と木炭の歴史について全体像をつかむことが可能になるであろう。

木炭は明治以前のエネルギー源として、新に次ぐ第二位を占めていた。明治期以降、石炭や電力に押されてその地位は下がっていくものの、戦前期に生産量は上昇し続けた。戦後はエネルギー転換が進んで、いまや「総合エネルギー需給バランス」表に、木炭の出る幕はなくなっている。しかも木炭の国内供給量は減少する一方で、外国からの輸入量が増加している。繁華街の焼鳥屋を覗いてみるとわかることだが、中国や、マレーシア、タイなどの東南アジアからの木炭が身近で使われている。

それでも木炭は、現在でも有用な役割を担っている。茶の湯や伝統工芸では熱源として利用されているし、バーベキューなどでも重宝されている。熱源、光源としてはなく、脱臭・消臭、調湿、浄水、鮮度保持、炊飯、土壌改良、研磨、絶縁、他の製品の原材料としての用途は広がっている。再生可能なエネルギー資源として、また里山の維持管理に有益な手段として、いま再び木炭を見直し、木炭史に新しいページを加える必要があるのではないだろうか。

蒋介石研究

政治・戦争・日本

山田辰雄・松重充浩・川島真編著

税込 4725円

東アジア海 文明の歴史と 環境

葛川雄・鶴間和幸編著

税込 5040円

中国 社会経済史 用語解

斯波義信編

税込 14700円

中国現代 教育思想史

朱永新中国教育文集 2

朱永新著／王智新訳

税込 4725円

中国 21 Vol.37 中国水利史

愛知大学現代中国学会編

税込 2100円

中国出版文化の総合情報誌

月刊 東方

年間購読料 税込1000円

〔見本誌無料贈呈〕

東方書店

東京都千代田区神田神保町 1-3

tel.03-3937-0300 fax.03-3937-0955

<http://www.toho-shoten.co.jp/>

■私が薦める武蔵野美術大学出版局の本

『線の稽古 線の仕事』（三嶋典東著）

白井敬尚（グラフィックデザイナー）

今、僕の机には、グラフィック・アーティスト三嶋典東の
新刊『線の稽古 線の仕事』全ページのゲラが置かれて
いる。むろん目的はこの原稿を書くことなただけれど、こ
の新作を送り出す側でいたい、という思いもあって、担当
編集の方にゲラをお願いしたのだ。

二〇〇九年四月。三嶋典東は、自身の集成ともいえる線
描の作品集『LINE STYLE』を上梓した。この作品集は、
過去二十数年の線描の軌跡をまとめた五百ページを超える
大著で、三嶋はこれを「出発点」と位置づけていた。
二〇〇八年初夏。僕はこの作品集のデザインを著者から
依頼された。

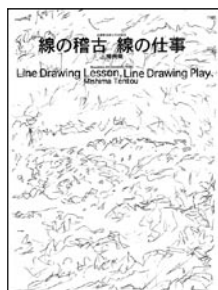
依頼内容はいたって簡潔「造本とテキストページの一切
を任せる。ただし出来上がるまで僕は見ない。よろしく。」
というもの。このデザイナー心をくすぐる言葉を、三嶋は
いつもの人懐っこい笑顔でさらりと言った。

はやいものであれから四年がたっている。

本誌「大学出版」が刊行されるちょうど今頃、『線の稽
古 線の仕事』は、書店の美術・デザイン書のコーナーで
新刊書として平積みされているはずである。

三嶋典東は造形者としてのキャリアをグラフィックデザ
イナーから始めた。手始めは、佐々木幹郎の詩壇デビュー
作『死者の鞭』の装幀。続く二冊目は寺山修司直々の指名
で『続書を捨てよ町へ出よう』を丸ごと一冊デザイン。
ともに学生時代の仕事である。以来三嶋は武蔵野美術大学
卒業後の進路をブックデザインと定め、詩集、評論集など
数多くの文芸書のデザインを手掛けるようになった。

一九七九年、三嶋は突如仕事の重心をイラストレーショ
ンへとシフトした。当初は鉛筆やペンの点描や線描による
具象画だったが、やがて机を挟むかのような筆圧で描いた



(2013年, 2835円)

抽象的な線描や、インクを紙の上にのせるようにして描く線描になっていった。現された線は、何かを具現化するのではなく、「何か」を見出すために五体を動かし、軌道の必然として存在しているかのようでもあった。その三嶋が母校の教壇に立つようになったのは一九九九年のこと。彼は自身のアトリエと大学、二つのステージで「線」を描き続けた。

『線の稽古 線の仕事』の前半は、「線の稽古」の題名通り三嶋が教鞭をとった武蔵野美術大学での授業が、彼自身の言葉によって平易に語られている。

ジャンプをしながら描く。走りながら描く。グラランドの土に描く。

学生もまた、三嶋が見い出そうとした「何か」を探し求めていくかのようだ。三嶋は「教える」という姿勢も見せなければ、具体的な解答も示しはしない。彼はただ「何が見える？」と、学生たちに問いかけているだけだ。

待望のシリーズ 刊行開始

子どもと家族の 認知行動療法 [全5巻]

シリーズ編集：P.スタラード
シリーズ監訳：下山晴彦

事例と図表に基づく体系的な知識と技術で、子どもと若者が抱える複雑な問題を解決。

- 1 うつ病 3570円
- 2 不安障害 3570円
- 3 PTSD 5月刊
- 4 摂食障害 7月刊
- 5 強迫性障害 9月刊

音楽的 コミュニケーション

心理・教育・文化・脳と臨床
からのアプローチ

D.ミール他編/星野悦子監訳
相互作用的な交流・通信手段
としての音を理論的・具体的・
学際的に探究。 6825円

アート表現のこころ

フォーカシング指向

アートセラピー体験etc.

池見 陽・L.ラパポート・三宅
麻希著 フォーカシング指向
アートセラピーと、体験過程
流カラーワークが写真と
逐語録で理解できる。2100円

子ども虐待への挑戦

医療・福祉・心理・司法の

連携を目指して

子どもの虐待防止センター監
修/坂井聖二著・西澤哲編著
坂井聖二の論文を中心に共鳴
する隣接各領域で活躍する実
践家らによる提言集。3990円

誠信書房

SEISHIN SHOBO
東京都文京区大塚3-20-6
<http://www.seishinshobo.co.jp>
03-3946-5666 【価格は税込み】

真っ白な一枚の紙を、木の机に貼る。円い作業台の上の白い紙を、目が撫でている。／円い木の机の上には、墨汁の壺とペン立てだけ。仕事場の広い窓から入る自然光。たいていは素足で、木の床を踏んでいる。／椅子は背もたれのない、木の尻皿に鉄パイプ脚。からだの動きやすさと、腕の振りを自在にすべく、自主制作の現場はたいていこんな様子。白い紙を、目が撫でている。／用紙が、白さだけになり 大きさが消える。そんな一瞬を感じて、ペンを握る。墨汁の壺に、金属ペンを浸す。／素手に握られた、墨汁を含んだペン先が、白い紙の表面に下降、接触し、滑走し始める。(「墨色の島国から」三嶋典東)

その「線」には、優しい眼差しと火傷しそうなほどの熱い思い、あふれんばかりの言葉、そして何より、三嶋自身の肉体が宿っている。

そう、彼こそ線描の詩人なのだ。

その線描の詩人から届けられる「線の贈りもの」。それが『線の稽古 線の仕事』なのである。

■私が薦める関東学院大学出版会の本

『見えてくる バプテストの歴史』

(出村彰監修／バプテスト史教科書編纂委員会編)

寺園喜基 (九州大学名誉教授)

本書では近・現代における信教の自由、政教分離に大きな影響を与えたバプテストの歴史が扱われ、教科書として使用できるように書かれている。今まで包括的な概説書がなかったので、本書の出版は非常に有意義である。

五人の専門家によって手分けされ、五章に亘って展開されている。

第一章では宗教改革について、更に十七世紀のバプテスト教会成立とは直接的ではないが精神的関連のある徹底的宗教改革としてのアナバプテストについて、またバプテストの歴史的研究史について概論される。

第二章では十七世紀イングランドにおけるバプテスト教会の誕生と発達が論じられる。イングランド国教会、ピューリタン、分離派、最初のバプテスト教会の二つの潮流であるジェネラル・バプテスト派とパティキュラー・バプテスト派の起源と発展。これらの入り組んだ歴史が手際よく

展開されている。

第三章では十八世紀イングランドにおけるバプテスト教会が扱われる。ジェネラル派の神学的動向と衰退、パティキュラー派における超カルヴァン主義、その閉鎖性のフラシーによる打破、ケアリーの海外宣教への道筋、十九世紀の「バプテスト同盟」の形成。これらの歴史が大きく鳥瞰されていて大変解りやすい。

第四章ではアメリカのバプテスト教会が歴史的に論じられる。ロジャー・ウィリアムズに代表される初期アメリカ・バプテストの信教の自由・政教分離の戦い、地方連合の誕生と協力伝道、信仰覚醒運動と教派の自覚と発展、奴隷制度に対する南北バプテストの姿勢および南北戦争、二十世紀へ向けての動きと根本主義の問題。アメリカ・バプテストの歴史がその都度の神学的テーマとともに、良く理解されるように工夫されていて読みやすい。



(2011年, 2205円)

知泉書館

アウグスティヌスの知恵

金子晴勇著 37点の珠玉の言葉を選び、ラテン語原文と平易な説明を添えた格好の入門書 四六 /164p/2200 円

トマス・アクィナスにおける人格(ペルソナ)の存在論

山本芳久著 倫理学と存在論を統合する視点から「人格の存在論」を構築した画期的作品 菊 /368p/5700 円

哲学と神学のハルモニア エックハルト神学が目指したもの

山崎達也著 ラテン語著作とドイツ語説教を駆使してエックハルトの全体像を解明する 菊 /364p/6200 円

聖歌隊の誕生

カンブレー大聖堂の音楽組織

山本成生著 西洋中世・ルネサンス期の聖歌隊がいかなる社会的基盤の中で形成されたか詳論 A5/618p/9000 円

ハーマンの「へりくだり」の言語 その思想と形式

宮谷尚実著 啓蒙思想と対抗しながら独自の思索を展開した難解な北方の思想家の実像に迫る A5/292p/4800 円

原子力時代の驕り 「後は野となれ山となれ」で マルチダウン

R. シュペーマン / 山脇直司・辻麻衣子訳 長年にわたる原子力の倫理的基礎づけを提示 四六 /136p/2200 円

東京都文京区本郷 1-13-2 (税抜)
TEL03-3814-6161 FAX03-3814-6166
<http://chisen.co.jp>

最後に二点ほど気付いたことを記す。第一は、イングラント、アメリカ、日本という歴史的展開でバプテスタの歴史が展開されているが、それはそれでまともなヨロツキといえ、本書のようなタイトルを付けるならヨーロッパにおけるバプテスタの歴史、またアジア・アフリカにお

ける歴史と現在の展開が不可欠であろう。第二に、バプテスタの歴史を書くとは何を書くのか、という点ももっと鮮明化されてもよいのではないか。制度や目に見える教会・分派の発展・展開を書くのか。また、バプテスタの理念・主義の成立・展開・挫折・貫徹を書くのか。その際に、会衆主義、信教の自由、政教分離、信仰者のバプテスマ、新生児洗礼の否定、沈めの形、新生の強調、人権・公民権の問題など、絡み具合や重点の置き方も含めて、最初か最後に総括的に論じられる必要があるのではないだろうか。

最後の二点にもかかわらず、本書の有意義性は不変であり、一読を勧めたい。

■私が薦める名古屋大学出版会の本

『性が語る——二〇世紀日本文学の性と身体』(坪井秀人著)

伊藤比呂美 (詩人)

いつか大破したらその破片を

わたしは昔、文学の研究者の妻だったことがあり、その仕事ぶりを見ながら、文学の研究者の仕事とは、死体を切り刻む検死官か、犯罪を立証する刑事に近いと思っていたものだ。いざ自分がその対象になってみると、こんな怖ろしいことはありません。

坪井さんには一度だけ会ったことがある。わたしは低迷していた(いつも低迷してはるんですが、あの頃はとくに)。「テリトリ論」の後で「あんじゅひめ子」の前だ。声も方向も見失い、試行錯誤していた。で、その頃坪井さんがこの本に収められている伊藤比呂美論の原型をいくつか書いて送ってくれた縁で、今度金沢に行きますから会いましょうとなったのである(彼はその頃金沢で教えていた)。

会ってみたらとっても感じのいい人で、わたしの書いたものは読み尽くしてくれており、もうそれだけで、詩人としては胸がいっぱいになったのだが、感じのいい坪井さん

は柔らかい物腰で、「もう伊藤比呂美はだめだと思つていい」とハッキリ言った。「でもこの間の××(何だったか忘れた)で、大丈夫かなと思つた」と。いや(ため息)、自分でももうだめだと思つていたので。わかる人にはわかるんだと思つて、すがすがしい気分になった。崖っぷちに立っている自分を認識したような。無理矢理認識させられたような。

それから坪井さんとは音信不通になった。この本を読んでも、あの後も坪井さんはわたしの詩について書きつづけてくれていたことを知った。崖っぷちから戻ってきたことも、そのあとの崖っぷちも、見届けてくれていたのである。

で、この本。もちろん第一部から第六部までもすばらしい。鷗外はだいきだし、ハーンは他人とは思えないし、太宰の女の声のことなら考えつめている。漫画と摂食障害については命をけずって向かいあっている。だから膝をう



(2012年, 6300円)



有斐閣 新刊案内
(面々は税込)
 東京・神田・神保町2/1 tel.03-3265-6811

<http://www.yuhikaku.co.jp/>

社会法制・ 家族法制における 国家の介入

A5判
 水野紀子編 4,200円
 少子高齢化時代の国家の
 役割を考究する。

知的財産法 判例六法

A5判
 大淵哲也編 2,940円
 知的財産法基本6法令の
 判例・参照条文を収録。

選挙管理の 政治学

日本の選挙管理と
 「韓国モデル」の
 比較研究

A5判
 大西 裕編 4,200円
 選挙管理の問題を、政治
 学的・行政学的に分析。

「人工物」複雑化 の時代

設計立国日本の
 産業競争力

A5判
 藤本隆宏編 3,990円
 日本の現場と産業が目指
 すべき道を示す。

ジェンダー論 をつかむ

千田有紀・中西祐子・
 青山 薫著
 【有斐閣アルマ】1,995円

常識に思わぬところから
 問いを投げかける。

◎図書目録送呈◎

ち手を叩きつつ読みすすめた。そして第七部。
 なにしろ自分の詩についてだから、理解度が違う。坪井
 さんの言いたいことが、よくわかるどころか、わかりすぎ
 て苦痛である。記憶をひきずり出される。思い出したくも
 ない記憶がずるずる出てくる。書いてもないのになぜわか
 ったと驚いた箇所もある。自分でもわからなかったことが
 やつとわかった箇所もある。自分を食い過ぎた感じで、げ
 つぶさえて出でくる。
 坪井さんはわたしの詩を、じつに丹念に切り刻み、切り
 開き、小さな暗闇やしこりを一つ一つ解き明かした。そし
 て「性が語る」という文脈の中に投げこんでくれた。
 比呂美が性を語るのではない。性がおのずから語らずに
 はおれないことを詩にするために、比呂美はたまたま声を
 貸しただけなのである。一つ一つの性行為や膣や子宮や経
 血や糞便という、わたしのこだわってきたものが、自分か
 ら離れて、よその女たちの性行為や膣や子宮や経血や糞便
 に合流していく。男たちの性行為やペニスや精液や糞便に

もつながっていく。
 実作者は、ほんとはこういうものは読んではいけない
 じゃないか。わたしはただ書いてきたのだ。何をやってる
 のか、どっちに向かっているのかもわからない。わかっ
 たら、わかるところまでしか行かれない。わからないか
 らこそ、遠くに、さらに遠くに行ける。ところが、坪井さ
 んの分析で、何をやってきたかほぼわかった。そっちの方
 向に行けば正しいというのもわかった。でも、わかっちゃ
 いけないのだ……。わたしの理想は、フリーウェイで、ギ
 ンギンにチューンアップしたクルマをふっ飛ばしているう
 ちにステアリングがボコッと外れてしまった状態だ。もの
 すごい恐怖、死はリアル、自分の本能だけを頼りに必死に
 走り抜けるしかない。そしてできることなら、道を大きく
 踏みはずし、転げ落ちて大破したい。そしてまた坪井さ
 んに、その破片を拾いあつめ切り刻み解き明かしてもら
 いたい。そのときに坪井さんにやる気を出してもらうた
 わたしは思いつきりすつ飛ばさなければならぬ。

■私が薦める京都大学学術出版会の本

『ツツバ語 記述言語学的研究』（内藤真帆著）

梶 茂樹（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授）

本書は、著者内藤真帆さんの最初の著書であり渾身の一冊である。最初の一冊がこんなに素晴らしいなんて、何と言うか、うらやましい。本の品位は、まずその装丁に現れるが、本書の表紙装丁は、右上半分が薄緑色で白く大きな書体で「ツツバ語」とあり、その下に多少フォントを落として端正な字体で「記述言語学的研究」とある。バックの写真には二人の少年がバナナの葉を傘代わりに頭に寄せ、そのうちの一人からは白い歯がこぼれ、こつちを向いている。何とも言えず、爽やかだ。

著者の内藤真帆さんは大学学部時代からオセアニア諸語の研究を志し、一貫してバヌアツのツツバ語を調査し、二〇〇八年三月に「ツツバ語の記述的研究」と題した論文で京都大学から博士の学位を得た。本書は、この博士論文を主体に、それ以降に書かれた論文を一つにまとめたものである。

バヌアツは日本からそれ程遠い国ではない。しかしツツバ語が話されるツツバ島に行くのは大変である。首都ポートビラまでいいとして、そこから国内便の飛行機で北部エスピリトゥ・サント島に行き、そこからさらにツツバ島に行かなければならないのだが、その手段は、たまに来るボートのヒッチハイクぐらいしかないという。何年前か、めでたくある財団の助成金をいただいた時、真っ先にボートを買うことを考えたという程である。現地携行の必須アイテムとして、救命胴着が第一に挙げられているのが泣かせる。

バヌアツには一〇〇以上の言語が話されているというが、その中でもツツバ語は最も研究の遅れている言語の一つである。実際的に内藤さんしか研究者はいない。逆に言えば、それ程の所に行かないと未記述の言語は残っていないということである。



(2011年、7350円)

本書は奥行きが深い。バスアツの言語状況から、音声、構文、意味の分野まで何でも書いてある。また巻末資料として、本書に出てきた単語を集めた語彙集と二編の詳細なグロス付きの民話、さらには音声学的資料として五つある母音の第一フォルマントと第二フォルマントの値が掲げられている。

また、この本にはCD-ROMが付いている。そしてこのCD-ROMには、舌唇音という音声の調音の動画が収められている。舌唇音とは、舌先と上唇で発音する珍しい音で、世界にも一〇ぐらいの言語にしかないという。

以下、本書からいくつか紹介しよう。まず、ツツバ語では、品詞に形態論的マーカーがないということに興味がかかる。だから、例えば*docunia*は「医者」という意味の名詞であると同時に「医者になる」という動詞でもあるのだ。どうして動詞であると分かるかと言うと、*anan*「食べる」や*me*「作る」などと同じように、動詞の主語代名詞（接語）がその前に付くからである。名詞と動詞の区別

のない言語は世界に意外と多い。

オセアニア諸語を特徴づける文法特徴の一つに名詞の所有表現がある。名詞が分離（譲渡）可能なものと分離不可能なものに分かれていて、「私の〜」という時も表現が違うのである。「父親」「母親」などの親族名称や、「頭」「腕」などの身体名称などは分離不可能なものであることはすぐ分かるが、では方向を表す「下」とか病気の「水虫」がなぜ分離不可能なのかはすぐには分からない。認識論的あるいは哲学的考察を加えて解明したいと思う向きもあるうかと思うが、そうは問屋が卸さない。奥が深いのである。

この内藤さんの本は、京都大学学術出版会に新たに設けられた「プリミエ・コレクション」の一冊として出版された。プリミエとはフランス語の*première*「初演」に由来する英語だそうだが、若い研究者の最初の一冊ということにシリース化したという。誰にとっても最初の一冊は最高に嬉しいものである。内藤さんも、恐らくこの本が出た時は嬉しくて抱いて寝たに違いない。

本邦最大の中国文化事典！

中国文化史大事典

〔編集代表〕尾崎雄二郎・竺沙雅章・戸川芳郎

●B5判・上製・函入・約1500頁 定価33,000円(税込)

4月上旬刊行!



歴史・文学・思想はもちろん、考古学・科学技術・美術・芸能・服飾など、中国伝統文化を形づくるさまざまな分野の項目を収録。中国文化を知るための決定版！

ご注文は：03-3868-2651(販売部)
<http://www.taishukan.co.jp>

大修館書店

■ 私が薦める大阪経済法科大学出版部の本

『環境と海洋——海から見直す地球環境』(細田龍介・山田智貴著)

細田龍介 (大阪府立大学名誉教授)

本書は、大阪経済法科大学における講義「環境と海洋」の教科書として執筆したものである。

二十世紀になって、経済重視・技術偏重主義のもと急発展を遂げた人間社会が大きく歪ませた地球環境の危機的な状態を理解し、この状態から脱するために我々人間は何を目指し、如何に行動すべきかについて考えるための基礎となる事柄を包括的に示すことを目的とした。文科系大学に在籍する学生が社会人として活動するための基礎的教養として、また、一般市民に対しては日々の生活の中で留意しておかなければならないことを、我々の日々の生活や社会・経済活動が海洋および海洋生態系に与える影響を海からの視点、すなわち海洋環境と人間生活・活動という視点で捉え、できるだけ図表を用いてわかりやすく解説した内容とした。

一〜四章では、人間生活・活動と地球環境の関係を知る

上で基本となる海洋の物理・化学・生物過程について、その現象やメカニズムおよび調査方法の概要を示し、人間生活・活動の結果排出される廃棄物の大気・水質環境や生物生態系への影響と、大気や海洋の諸現象が人間生活活動に寄与する仕組みを解説した。

五、六章では、海洋に存在する利用可能な資源についてその内容や利活用・管理に関して述べると同時に、その資源が地球規模の資源問題や環境問題を引き起こしていることを示した。また、沿岸域空間利用として行われる埋立や人工島建設などの開発が沿岸域流況の様相を大きく変え、水質・底質環境の悪化や生物生態系の劣化を招くなどの影響があることを示した。

七章では、現在深刻化している地球規模の諸環境問題に関して、個々の問題が独立して発生しているのではなく相互に関連していること、そのすべてが人間活動に起因して



(2012年, 1890円)

いることを明らかにした。海洋を含む水域と関係の深い、地球温暖化、酸性雨、海洋汚染をとりあげ、その原因、発生メカニズム、影響について解説した。海洋汚染では、残留性有機化学物質の生物濃縮が深刻化していることを例を挙げて指摘している。

八章では、沿岸海域の水質・底質の悪化により引き起こされる富栄養化、赤潮、貧酸素化、沿岸海域生物生態系の悪化などについて、発生の原因、仕組み、現状、水産業への影響などについて解説した。また、漂流・漂着ゴミの問題に関しても深刻な状態であること示した。沿岸海域の環境問題のすべてが陸域における人間生活・活動から排出されるゴミ、排水などの廃棄物に起因することを述べた。

九章では、沿岸陸域における社会問題でもある生活・産業排水・廃棄物の処理・処分問題、沿岸域開発による人と海の乖離の問題などについて解説した。特に、家庭からの生活系ゴミに含まれる膨大な量の厨芥類の問題、最終処分地確保のために行われる海域埋立のために浅場が大きく減

少していることなどを述べた。

十章では、環境保全のための国際・国内法規制・基準について解説した。環境アセスメント法に関しては法の制定前に比べて進歩しているがやはり万全とは言えないことを指摘した。また、環境保全・改善技術についても、工学技術の適用には注意が必要であることを示した。

十一章では、地球システムの微妙なバランスを崩して今日の繁栄を築いた人類の環境観の変遷、市民生活の中における環境意識のあり方、更に最近の話題となっている循環型社会の構築やゼロ・エミッション、生物多様性などについて言及した。

本書が、我々が「母なる海」に負荷をかけ続けていることの理解と、日々の生活の中で、無駄を省き、「もの」を大切にすることの必要性の一助になれば幸いである。

ストック・オプション 会計

山下克之著 不確実性の評価と対応
日本・米国 国際基準でのストック・オプションの会計処理や会計基準の歴史と現状。問題点、運用実態も踏まえ改善策を提示 ●3780円

利用と搾取の 経済倫理

山口拓実著 動物を「搾取」とは？
通常、搾取と訳される exploitation の持つ多様な語義を整理。「資本論」の方法論で現代日本の農業や、人間と自然との共生を議論 ●4200円

小売商業の 事業継承

柳 到亨著 日韓の統計調査を元に同じ儒教的価値観を持ちながら商店の後継者難に悩む日本と悩まない韓国、様々な要因を比較することで家族と事業の関係を探る ●3465円

不安定と格差の 住宅市場論

大泉英次著 多元的地域社会に向け高齢化と人口減少、雇用不安、グローバル化の日本の住宅市場への影響。英米独と比較し、二極化する住宅市場改革への政策を提言 ●3465円

白桃書房

東京都千代田区外神田5-1-15
TEL03-3836-4781 FAX03-3836-9370
http://www.hakutou.co.jp

■ 私が薦める関西学院大学出版会の本

『ドゴールの核政策と同盟戦略——同盟と自立の狭間で』(山本健太郎著)

豊下 檐彦 (前関西学院大学法学部教授)

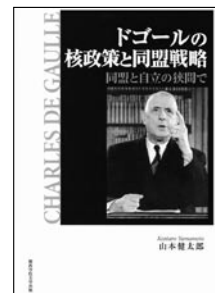
二〇〇九年四月のサルコジ大統領によるフランスのNATO統合軍事機構復帰を巡っては、その決断が伝統的なドゴール外交の「継続」なのか、あるいは「転換」なのかという観点からフランスの国内外で様々な議論を生んだ。何故なら、かつて大統領を務めたドゴールは一九六六年三月に統合軍事機構からの離脱を宣言したのだが、この動きは対米自立及び独自外交を象徴する動きとして、フランス外交における「遺産」と位置づけられてきたからである。

復帰という決断について、従来の政策の「転換」と主張する論者は、「ドゴール主義に基づく外交政策を放棄した」としてサルコジを批判した。他方で「継続」を主張する論者は、ドゴールが「ブラグマティックかつリアリスティックなビジョン」を持っていたことから、冷戦後に変容する国際秩序にフランスが適応するための「復帰」という動きは、ドゴールの政策に反するものではないとの見解を示した。

こうした議論に見られるように、冷戦期におけるドゴール外交は、今日に至るまでフランス政治外交に多大な影響を与えていると言える。

本書は、こうしたドゴールの外交政策について、仏米両国の一次資料や多数の個別的な先行研究を参照し、包括的に考察したものである。フランス外交史研究に対する貢献としては、これまで十分に考察されてこなかったドゴールの核軍備管理・軍縮構想や欧州核政策についての分析を踏まえて、筆者が着目するフランスの統合軍事機構離脱について包括的な考察がなされた点が挙げられる。検証の際には、従来研究と比べてより精緻な分析をするために、ドゴールの外交政策における戦略目標であったフランスの自立性の回復、独自の欧州の実現、ヤルタ体制の変革という具体的な評価基準を定めて論じている。

ドゴール政権下のフランスは、一九六〇年に初の核実験



(2012年, 3360円)

に成功し、「フォルス・ド・フラップ (Force de Frappe)」と称される独自核戦力の整備に邁進した。フランスは核開発を通じて、アメリカの「核の傘」に依存していないとする論理を形成し、その外交政策を積極的に展開した。これらフランスの核戦力は、独自の外交政策を進める上で不可欠な役割を担ったと言える。

だが、その一方で本書を丹念に読解すれば、ドゴールの核政策はそれが「独立」して展開したというよりも、統合軍事機構からの離脱、さらにはソ連との関係改善といった包括的な外交政策の動きと同時並行的に推進されたことで、その価値が増したという側面が浮き彫りになってくる。即ち、フランスの自立性の回復や独自の欧州の実現、ヤルタ体制の打破といった外交姿勢に基づき、これら複数の戦略目標の一環として遂行されたことで、ドゴールの核政策の意義は高まったのである。

こうしたドゴールの外交構想は、特に「大西洋からウララまでの欧州」というレトリックに象徴的に示されており、

本書で詳細な検討がなされているドゴールによる統合軍事機構離脱も、この方針に基づき遂行された。ドゴールは統合軍事機構からフランスを単独的に離脱させることで、在仏米軍基地の全面撤去を実現するなど戦略目標の一つであるフランスの自立性を高めることに成功した。同盟関係は維持しつつ、アメリカから一定の距離を取る NATO 政策は、対ソ外交を軸とするデタント政策と共に、将来的な独自の欧州の実現や、ヤルタ体制の打破に向けての「道筋」を示したとも言えるだろう。

以上のように、フランスの独自外交の特徴として、複数の動きを戦略的かつ一体的に描き出すドゴールの外交構想が重要な役割を担っていたことが認められる。本書が論じた同盟を巡る考察は、フランスのみならず、アメリカと同盟を組む国家の「在り方」にも示唆を与えるものとなる。東アジアに目を移せば、混沌とする戦略環境において、日本も自らの構想に基づき外交政策を進めることが、何よりも求められていると言えるのではないだろうか。

地域共創・未来共創

沖縄大学土曜教養講座500回の歩み

沖縄大学地域研究所編集 定価1785円(税込)

学問の成果をどうやって地域に還元するか

地域における教育実践活動を拡大発展させるために
大学は何ができるか

大学を地域活性化の拠点とし、大学のあり方への根

源的な挑戦を続けている沖縄大学の36年間の記録

多彩なテーマと講師陣で多くの市民の期待に応えてきた名物講座500回のリストと講座関係者による座談会、話題の講座の講演再録など、盛りだくさんの内容

芙蓉書房出版

113-0033 東京都文京区本郷 3-3-13
TEL 03-3813-4466
FAX 03-3813-4615
www.fuyoshobo.co.jp

■私が薦める広島大学出版会の本

『原爆と広島大学——「生死の火」学術編』 (広島大学原爆死没者慰霊行事委員会編)

岡本哲治 (広島大学副学長)

広島大学は、昭和二十四年(一九四九年)に、当時広島市内にあった広島文理科大学、広島高等学校、広島工業専門学校、広島高等師範学校、同附属中学校、同附属国民学校、広島女子高等師範学校、同附属山中等女子学校、広島師範学校、同附属国民学校、広島県立医学専門学校、広島市立工業専門学校を含む諸学校を統合して設立された。

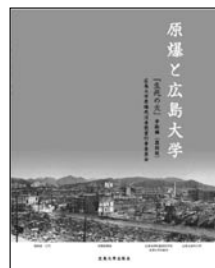
昭和二十年(一九四五年)八月六日に、戦争兵器として米国により投下された世界最初の原子爆弾による被害は、市内校の在籍者合計九〇八九名のうち、昭和二十年(一九四五)年末までの死没者数で六七六名、昭和五十年(一九七五)年までの被爆死没者数では、計八八九名に及んだ。その中には、授業中に被爆死した者、勤労働員の勤務場所により難を逃れた者もあるが、山中等女子学校の二年生はほとんど全員が死亡し、一年生も半数が死亡している。他方、前日までの集団疎開により全員が難を逃れた附属学校や、前日

深夜に疎開した県立医専もあった。

本書は、尊い命を失われた原爆死没者への追悼の思いとともに、原爆および原爆からの復興における広島大学の学術的貢献を詳細に記録し、後世に残そうとするものである。また、人類史上忘れ去ることのできない原爆災害を広島大学の学術研究の原点として改めて見据えようとしたものがあり、故飯島宗一元学長のもとで企画された被爆三十年追悼事業の一環として、昭和五十年に編集・刊行された。

内容は、理・工学関係、医学関係、人文科学関係、社会科学関係、平和教育関係、原爆被災資料に分けてまとめられ、調査研究報告の他、次のようなエピソードを含む被害と復興の過程が生々しく記録されている。

- ・被爆当日から二か月間は、近隣・近県医師会の救護班の応援も得て、五三か所の仮設救護所が開設されたこと。
- ・被爆二日目に、病理学教官による死因究明のための病理



(2011年、2205円)

解剖が、民心の悲嘆、動揺等を考慮して見送られたこと。
・生き残って活動できたただ二名の物理学科教官による残存放射能測定は、理化学研究所放射能研究班（班長仁科芳雄）のローリツェン験電器を借用しておこなわれたこと。

・国の原爆災害調査研究特別委員会が九月になって発足したことで、以後、各大学による調査研究が始められたこと。
・熱傷痕痕からケロイドが多発したことについて、放射線被害が原因であるとの研究が黙殺されたこと。

・本格的な被爆者の治療は、昭和二十七年（一九五二年）に原爆乙女九名が東京大学で診療を受け、次いで広島外科会と市医師会が無料一斉検診を実施した時に始まったこと。
・被爆者への援護は、昭和二十九年（一九五四年）のピキニ環礁水爆実験への世論の盛り上がりもあって昭和三十二年（一九五七年）の原爆医療法の制定により確立したこと。

・原爆ドーム（産業奨励館）保存の論議は、昭和三十年（一九五五年）頃から盛んになり、昭和四十二年（一九六七年）からエポキシ樹脂注入による保存工事が開始されたこと。

全国都道府県の歌・市の歌 名刀と日本人 刀がつなぐ日本史

中山裕一郎 監修
都道府県の歌53曲・市の歌408曲
を初めて集成。歌の記憶の中に「故郷」がよみがえる。資料としても貴重。

渡邊 妙子 著
名刀と呼ばれ今に伝えられている刀には、時代の記憶が内包されている。名刀の歴史から日本史を読み解く新しい試み。

A15判 10000円

四六判 23100円

戦後歴史学 用語辞典

木村茂光監修・歴史科学協議会編
重要テーマ300項目に概略・提起者・概念・論争の経過や影響を詳細に解説。図書館・研究者必携。

A5判 54600円

小堀遠江守正一 発給文書の研究

藤田恒春 著
初めて網羅される小堀正一の書状。江戸幕府草創期の政治機構や文化人の交流を明らかにした小堀遠州文書の集大成。

A5判 39750円

東京堂出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-17
TEL03-3233-3741 FAX03-3233-3746
http://www.tokyodoshuppan.com/

一方、東日本大震災とそれに続く東京電力福島第一原子力発電所事故に際して、広島大学は国の緊急被ばく医療体制における三次被ばく医療拠点機関として、大学をあげて支援をおこなっている。しかし今後、長期に亘るであろう復興を支えるためには、放射線災害復興を推進する研究と人材育成が不可欠である。このような人材育成は、世界最初の原爆災害を克服し、復興した広島大学の責務でもある。そのために、広島大学では新しい分野横断的リーディング大学院教育プログラム（放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム）を創設し、放射線災害復興学を確立し、「放射線災害から生命を護る人材」、「放射能から環境を護る人材」、「放射能から人と社会を護る人材」の育成を開始した。

本書は、そのバイブルとなるほか、被爆経験を長く語り継ぎ、広く共有することが、後に続く者の責務であるとの思いから、関係者の理解と賛同を得て平成二十四年（二〇二二年）に復刻されたものである。

一般社団法人 大学出版部協会賛助会員社名簿

【50音順】2013年4月1日現在

株式会社朝日新聞社	〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2
亜細亜印刷株式会社	〒380-0804 長野県長野市大字三輪荒屋1154
株式会社アベル社	〒162-0825 東京都新宿区神楽坂2-19 銀鈴会館408
尼崎印刷株式会社	〒661-0975 兵庫県尼崎市下坂部3-9-20
王子製紙株式会社	〒104-0061 東京都中央区銀座4-7-5
岡本出版発送株式会社	〒353-0001 埼玉県志木市上宗岡3-16-2
カクタス・コミュニケーションズ株式会社	〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-2-3 富士ビル7F
城島印刷株式会社	〒810-0012 福岡県福岡市中央区白金2-9-6
株式会社京都学術振興会	〒605-0009 京都府京都市東山区大橋町88-1 辻野ビル2F-A
株式会社クイックス	〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-13 ニュー原鉄ビル5F
株式会社桑川印刷	〒112-0012 東京都文京区大塚6-9-7
港北出版印刷株式会社	〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-7-7
三松堂印刷株式会社	〒101-0065 東京都千代田区西神田3-21 住友不動産千代田ファーストビル南館14階
三美印刷株式会社	〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-9-8
三立工芸株式会社	〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-2-10 寺西ビル3F
三和印刷株式会社	〒381-2226 長野県長野市川中島町今井薬師堂1822-1
信濃印刷株式会社	〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-1-11
新日本印刷株式会社	〒162-0801 東京都新宿区山吹町342
大同印刷株式会社	〒849-0902 佐賀県佐賀市久保泉町上和泉1848-20
ダイニック株式会社	〒105-0004 東京都港区新橋6-17-19 御成門ビル
株式会社太洋社	〒501-0431 岐阜県本巣郡北方町北方148-1
株式会社竹尾	〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-12-6
宗教法人天然寺	〒204-0021 東京都清瀬市元町1-4-5-711
株式会社東京弘報社	〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-34
株式会社とうこう・あい	〒104-0061 東京都中央区銀座8-11-11
東光整版印刷株式会社	〒135-0006 東京都江東区常盤2-12-15
株式会社トーヨー企画	〒602-0923 京都府京都市上京区油小路通中立売上ル 油橋詰町93-7
株式会社日本経済新聞社	〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7
萩原印刷株式会社	〒112-0004 東京都文京区後楽2-21-12
株式会社博報堂	〒107-6322 東京都港区赤坂5-3-1 赤坂Bizタワー 19F
株式会社平文社	〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-35-7
株式会社堀内印刷所	〒335-0034 埼玉県戸田市笹目3-11-5
株式会社毎日新聞社	〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1
誠製本株式会社	〒174-0042 東京都板橋区東坂下1-19-5
株式会社遊文舎	〒532-0012 大阪府大阪市淀川区木川東4-17-31
株式会社読売新聞東京本社	〒104-8243 東京都中央区銀座6-17-1
株式会社ライトコミュニケーション	〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町28-5 吉元ビル4F
渡辺印刷株式会社	〒152-0031 東京都目黒区中根2-7-1

一般社団法人大学出版部協会は、私たちの活動をご理解・ご支援下さる皆様による「賛助会員」制度を設けています。ここに趣旨にご賛同下さり、ご支援頂いている各社様をご紹介します。なお「賛助会員」に関するお問い合わせは協会事務局までお寄せ下さい。

●広告掲載出版社一覧 (掲載順)

岩波書店	千代田区一ツ橋2-5-5	東方書店	千代田区神田神保町1-3
みず書房	文京区本郷5-32-21	誠信書房	文京区大塚3-20-6
御茶の水書房	文京区本郷5-30-20	知泉書館	文京区本郷1-13-2
未來社	文京区小石川3-7-2	有斐閣	千代田区神田神保町2-17
吉川弘文館	文京区本郷7-2-8	大修館書店	文京区湯島2-1-1
藤原書店	新宿区早稲田鶴巻町523	白桃書房	千代田区外神田5-1-15
日本評論社	豊島区南大塚3-12-4	芙蓉書房出版	文京区本郷3-3-13
農文協	港区赤坂7-6-1	東京堂出版	千代田区神田神保町1-17



社会、経済、歴史、地理、環境…
幅広い年代とジャンルを網羅した
1,000万枚を超えるフォトストックと
10万点のニュース映像を、
あなたの大学にアカデミック価格で
お届けします。



1835年の設立以来、正確・中立・公正を守り続ける歴史と信頼のAFP通信
(Agence France-Presse)が、厳密な倫理規定のもとで取材した写真と映像、さら
に速報性の高いニュース記事を、日本国内の教育機関向けに提供するデータベ
ースサービスです。

すべてのデジタル素材は、アカデミックユースでの著作物二次利用許諾済みです。
著作、教材、論文、授業や学会でのプレゼンテーションなどに、煩雑な著作権処理
なしでご利用いただけます。

■ 資料請求、無料トライアルは AFPWAA ウェブサイトから

<http://www.afpwaa.com>

AFP World Academic Archive

学校法人文化学園 アカデミックアーカイブセンター

〒151-8521 東京都渋谷区代々木 3-22-1

Tel: 0120 - 021 - 311 info@afpwaa.com

一般社団法人
大学出版部協会
加盟出版部一覽

北海道大学出版会
〒060-0809 札幌市北区北9条西8丁目
北海道大学構内
TEL: 011-747-2308 FAX: 011-736-8605

弘前大学出版会
〒036-8560 弘前市文京町1
弘前大学附属図書館内
TEL: 0172-39-3168 FAX: 0172-39-3171

東北大学出版会
〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1
東北大学構内
TEL: 022-214-2777 FAX: 022-214-2778

流通経済大学出版会
〒301-8555 龍ヶ崎市平畑120
TEL: 0297-60-1167 FAX: 0297-60-1165

聖学院大学出版会
〒362-8585 上尾市戸崎1-1
TEL: 048-725-9801 FAX: 048-725-0324

聖徳大学出版会
〒271-8555 松戸市岩瀬550
TEL: 047-365-1111 FAX: 047-363-1401

麗澤大学出版会
〒277-8686 柏市光ヶ丘2-1-1
TEL: 04-7173-3320 FAX: 04-7173-3154

慶應義塾大学出版会
〒108-8346 港区三田2-19-30
TEL: 03-3451-3168 FAX: 03-3451-3124

ケンブリッジ大学出版局
〒140-0002 品川区東品川1-32-5
TEL: 03-5479-7295 FAX: 03-5479-8277

産業能率大学出版部
〒100-0005 千代田区丸の内1-7-12
サピアタワー9階
TEL: 03-6266-2400 FAX: 03-3211-1400

専修大学出版局
〒101-0051 千代田区神田神保町3-8
TEL: 03-3263-4230 FAX: 03-3263-4288

大正大学出版会
〒170-8470 豊島区西巢鴨3-20-1
TEL: 03-3918-7311 FAX: 03-5394-3038

玉川大学出版部
〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1
TEL: 042-739-8935 FAX: 042-739-8940

中央大学出版部
〒192-0393 八王子市東中野742-1
TEL: 042-674-2351 FAX: 042-674-2354

東京大学出版会
〒113-8654 文京区本郷7-3-1
東京大学構内
TEL: 03-3811-8814 FAX: 03-3812-6958

東京電機大学出版局
〒101-0047 千代田区内神田1-14-8
TEL: 03-5280-3433 FAX: 03-5280-3563

東京農業大学出版会
〒156-8502 世田谷区桜丘1-1-1
TEL: 03-5477-2666 FAX: 03-5477-2747

法政大学出版局
〒102-0073 千代田区九段北4-3-24 京二ビル5階
TEL: 03-5214-5540 FAX: 03-5214-5542

武蔵野大学出版会
〒202-8585 西東京市新町1-1-20 武蔵野大学構内
TEL: 042-468-3003 FAX: 042-468-3004

武蔵野美術大学出版局
〒180-8566 武蔵野市吉祥寺東町3-3-7
TEL: 0422-23-0810 FAX: 0422-22-8309

明星大学出版部
〒191-8506 日野市程久保2-1-1
TEL: 042-591-9979 FAX: 042-593-0192

関東学院大学出版会
〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1
TEL: 045-786-5906 FAX: 045-786-2932

東海大学出版会
〒257-0003 秦野市南矢名3-10-35
東海大学同窓会館3階
TEL: 0463-79-3921 FAX: 0463-69-5087

名古屋大学出版会
〒464-0814 名古屋千種区不老町1
名古屋大学構内
TEL: 052-781-5027 FAX: 052-781-0697

三重大学出版会
〒514-8507 津市江戸橋2-174
三重大学附属病院5階
TEL: 059-232-1356 FAX: 059-232-1356

京都大学学術出版会
〒606-8315 京都市左京区吉田近衛町69
京都大学吉田南構内
TEL: 075-761-6182 FAX: 075-761-6190

大阪経済法科大学出版部
〒581-8511 八尾市楽音寺6-10
TEL: 072-941-9129 FAX: 072-941-9979

大阪大学出版会
〒565-0871 吹田市山田丘2-7
大阪大学ウエストフロント
TEL: 06-6877-1614 FAX: 06-6877-1617

関西大学出版部
〒564-8680 吹田市山手町3-3-35
TEL: 06-6368-0238 FAX: 06-6389-5162

関西学院大学出版会
〒662-0891 西宮市上ヶ原一番町1-155
TEL: 0798-53-7002 FAX: 0798-53-9592

広島大学出版会
〒739-8512 東広島市鏡山1-2-2
TEL: 082-424-6226 FAX: 082-424-6211

九州大学出版会
〒812-0053 福岡市東区箱崎7-1-146 九州大学構内
TEL: 092-641-0515 FAX: 092-641-0172

NESE
RSITY
SES

94
3.4
NG

大学出版94号(2013年春)
2013年4月1日発行
頒価100円(〒共)

発行所:
一般社団法人大学出版部協会
ISSN 0913-3305
振替00170-8-389131
〒102-0073
東京都千代田区九段北
1丁目14番13号
メゾン萬六403号室
TEL: 03-3511-2091
E-MAIL: mail@ajup-net.com
URL: http://www.ajup-net.com/

使用書体:
モトヤ明朝, 3, 4
Granjon, Roman
使用紙:
紀州の色上質 特厚口 白

表紙デザイン:
白井敬尚形成事務所